

鹿児島県史料集(Ⅷ)

御登御道中日帳御下向
列朝制度

卷之五十六



鹿児島県史料集(Ⅶ)

御登御道中日帳御下向
列朝制度

卷之五十六

刊 行 の こ と ば

鹿児島県史料第八集として、ここに「御登御道中日帳御下向」を刊行いたします。

こんにちまで、別冊を含めてすでに九冊目の刊行になるわけですが、いずれも県史料刊行委員の方々の並々なぬご努力の賜にはかなりません。本集は同委員の原口虎雄氏によって編集・校訂・校閲が進められ、ここに刊行のはこびになったものですが、長い期間に亘る先生のお骨折りに対し、心からの敬意と感謝を捧げたいと思います。

県史料の編集刊行の事業は、県立図書館の重要事業の一つとして進められているものですが、それはとりも直さず地方史研究者の利用に供するためのものであり、また地方史研究をさかんにするための一助にもという私たちの願いもこめられているものでもあります。

皆様がたのおしごとに少しでもお役に立てば幸甚に存じます。

昭和四十三年三月十日

鹿児島県立図書館長

新 納 教 義

解 題

鹿児島大学
法文学部教授

原 口 虎 雄

薩摩藩関係の紀行記集を編集したいという願いを、長い間もち続けてきた。そのため、公私にわたる紀行記はできるだけ集めたつもりでいる。しかし集めただけで整理がついていない。

新納館長から史料刊行を割りあてられたが、折あしく藩法集上下（二六字詰・二一行・二段組各千百頁）や名瀬市誌や近世庶民史料集成などその他にも、気の遠くなるような膨大な分量の仕事をかかえこんでいた。そこでとり敢えず、まとめやすい公の紀行関係からまとめて出すことにした。体裁上も、公から私にわたるのが、順序と思ったからである。

本編には、「御登御道中日帳御下向」（嘉永四年）と「列朝制度卷之五十六」（御供立・御行列・御部屋同）の二篇を収めた。

前者は、御一門加治木島津家三万九千五百三十八石の江戸上下の格式や道中の次第を日記してあるもので、文中しばしば見える新納仲兵衛は、加治木三家老の筆頭で六百石を給せられ、その祖族菴は島津家柱石の功臣であつたから、たとい加治木島津家にありとは云え、特別に直士の待遇をうけた名門である。現在の新納県立図書館長の先祖に当る。底本は図書館本を用いた。

幕末（斉彬襲封の直後）の領内・領外の交通の歴史・地理を知るのには、極めて興味ある記事に満されている。「中書家久公御上京日記」（近世初頭九州紀行記集所収、新城常三校編）は天正三年（一五七五）の道中記であるが、本編はその時を二七六年もへだてた嘉永四年（一八五一）の道中記である。両者を比較して見らる事は、特に興味あることとしてお勧めしたい。

後者は、島津七十七万石の大名の江戸上下の格式・次第を詳説しているが、今では知る人もなく、磯の島津家でも困っておられたようである。何かの参考になれば幸である。道中宿泊・休息・賄料などについては、別に「列朝制度卷之三十四」始め「同十九」・「同十八」・「同十五」を整理し、「薩摩江戸上り道中記」・「旅行細見記イ」・「同ロ」を校訂して続編として刊行して補完したいと思っている。

これらは公向の記録であるが、私の記録も、特に民間の事情を知るに必要と考えている。これには武士・百姓・町・浦浜人の各層にひろくわたりたいと考えているが、各家庭の匣底に空しく眠っているものが多いのを残念に思う。これを機会にひろく県民の御協力を願いたい。第三編とするつもりでいる。

さらに紀行集として万全を望めば、他国人の薩摩藩領旅行記がある。われわれには何も珍しくない人情・風俗・水土も、他国人の客観的な眼には、非常に珍しいと感ずることがある。「西遊記」・「西遊雜記」・「觀光集七」・「薩隅日三州経歴之記事」・「薩摩風土記」・「薩陽往返記事」・「西巡私記」その他、枚挙にいとまがない。このうち未刊の代表的なものを第四篇としておさめたい。

さて「列朝制度卷之五十六」は、最も信頼性の強い都城島津家本により校訂したが、底本がかなり難しいものであったからなるべく細かに句読点をつけた。「御登御道中日帳御下向」の方は、印刷を写植によったから、後で面倒になるので、すべて省いた。たとい省いても極めてやさしい文章であるから、差支えはあるまいと考える。

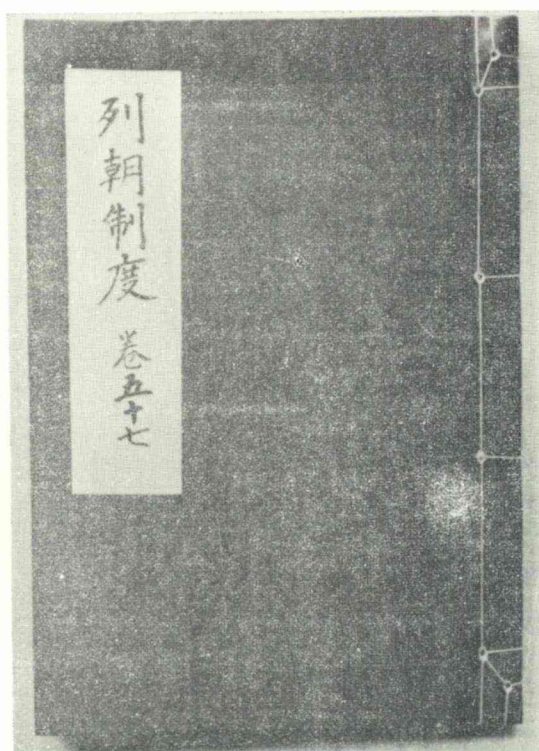
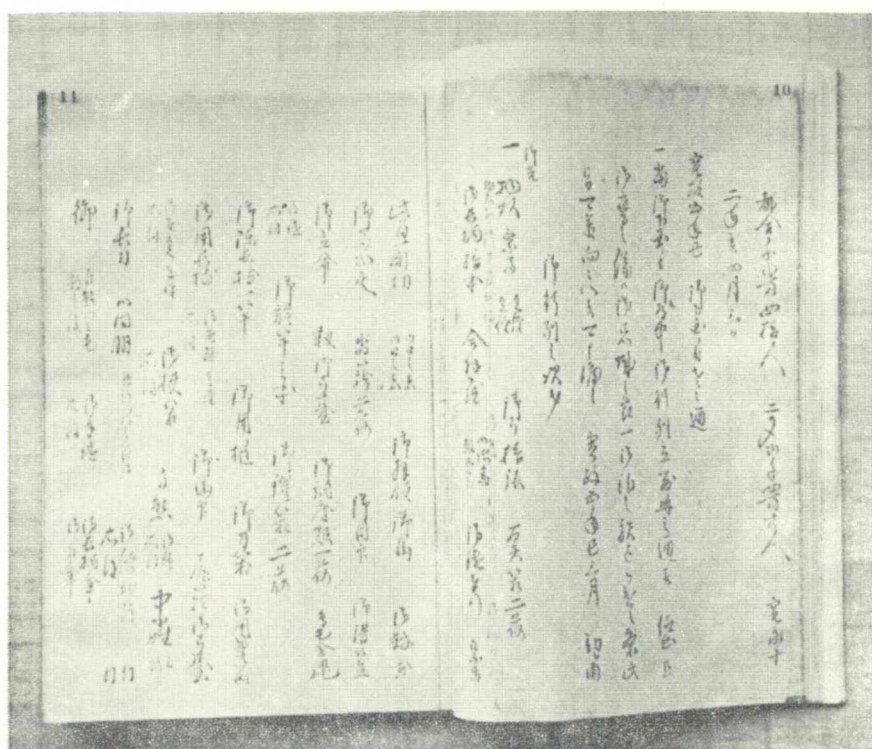
浄書ならびに校正は、九州大学大学院国史学専攻黒田安雄・原口邦紘の両君に、一切をお願いした。

正月八日

一 旦那様御事江戸表御用付急に被遊
御出府御様旧臘廿六日
御承知即御手當向御内用御用入衆
其外御役々衆毎回御出に終十日位、
御供御粧三方校爲整候而今朝六時
御供御、已上刻 御立、助、以、御仕
舞掛五時迄御屋敷
御立水上ノ御客屋江御立寄御親類様
方其外様御見廻又御便者等有之候
水上迄御役人組頭御番頭御留守居御取次
番爲伺御機嫌罷越候

一 水上 御立横井江暫時ハ
御小休御仕度替被爲 在候御宿江青銅二
十足被下矣
一 伊集院町江御休御豐飯被召上候
一 同所御立年寄頭ヨリ 玉子等進上同
御機嫌中上候間左利中江白銀二兩際下
候
但
同所御立日江郷士兩人並出居御道案内上候
一 同所御用銀江銀壹兩被下御宿江銀二兩際下候
一 平兵衛事妙國寺江御先例ノ通
御代参相勤御香奠金百足被差上候
一日入時分市来ノ浪江 御着宿

御登御道中日帳御下向



御登御道中日帳御下向

嘉永四年

御登御道中日帳

御下向

亥正月八日ヨリ

二月六日迄

三月二十日ヨリ

五月十二日迄

御役人座

御登御道中日帳

先觸

正月八日

鹿兒島出立

同日

市來泊

伊集院町休

正月九日

阿久根泊

向田町休

米之津休

又八郎殿宿壹軒

一士以下貳拾壹人

一鎧箱壹荷

一弓臺壹肩

一兩掛三荷

一長持三棹

但老棹二付八人持

一馬荷

但手挾二候テ最寄江下宿壹軒

一筵包駕籠壹挺

一宿壹軒

用達

丸田彌七左衛門殿

左近允六右衛門殿

足輕

五人

一上下貳人宛

一駕籠貳挺

一兩掛貳荷

一馬荷壹駄

又八郎殿

一下宿壹軒

役人

新納平兵衛

外二 四人

足輕以下

拾七人

一具足箱壹荷

一兩掛壹荷

一駕籠壹挺

一馬荷壹駄

一次人足七拾貳人

内八人 陸尺用

拾九人 駕籠力キ

一馬九疋 口引有

右者此節又八郎殿江戸表就出府明後八日右宿割之通止宿ニテ差急被致通行候間宿並人馬無滯御手當被成置給度御座候間此旨御案内申越候 以上

役人

正月七日

新納平兵衛

伊集院ヨリ出水迄

諸所 郷士御年寄衆中

御郡見廻衆中

張紙ニ本文ニ付

一夫拾六人

一繼馬七疋

覺

一馬九疋

一夫七拾貳人

内八人 陸尺用

拾九人駕籠カキ

右者又八郎殿江戸表出府付急ニテ明八日被致出立筈候間人馬當朝未明當屋敷江立揃様御手當被成置被下度御座候此旨申出候 以上

但

別紙ヲ以テ伊集院諸所江申越候間御繼越可被下候

加治木役人

正月七日

新納平兵衛

在番所

御郡見廻衆中

先觸

一繼人足七拾貳人

内八人 陸尺用

拾九人駕籠昇

一馬九疋 口率有

右者薩州鳴津又八郎江戸出府ニ付別紙宿割之通休泊ニテ致通行候間驛々人馬無滞繼立可給候

薩州

正月七日

新納平兵衛

水俣ヨリ小倉迄驛

問屋役人衆中

正月十日

水俣泊

佐敷休

十一日

日奈久泊

十二日

川尻泊

十三日

南ノ関泊

十四日

松崎泊

十五日

木屋之瀬泊

十六日

小倉着

小川休

植木休

羽犬塚休

内野休

黒崎休

木屋之瀬

以上

右御物足輕福嶋勘助御先荷爲宰領市來ヨリ御先ニ踏越候付持致候

本文御宿賦ノ儀正月十三日川尻ヨリ南ノ関迄御越ノ筈候處細川様御行逢ニ不相成様時刻御扣御見合ニ相成候處遅延ノ故其上雨降ニ付山鹿御泊ニ相成夫ヨリ御休泊朱書ノ通被召替候

亥正月八日

一旦那樣御事江戸表御用付急ニ被遊 御出府候様旧臘廿六日

御承知即御手當向御内用頼御用人衆其外御役々衆毎日御出ニテ纔十日位ノ間ニ御旅粧旁被爲整候而今朝六時御供揃ニ而已上刻 御立ノ筋ヲ以テ御仕舞掛五時過御屋敷

御立水上ノ御客屋江御立寄御親類様方其外様御見廻又ハ御使者等有之候

一水上迄御役人組頭御番頭御留守居御取次番爲伺御機嫌罷越候
一水上 御立横井江暫時ハ 御小休御仕度替被爲 在候御宿江青銅二十

正被下候

一伊集院町江 御休御書飯被召上候

一同所郷士年寄與頭ヨリ玉子等進上伺 御機嫌申上候間右相中江白銀二兩被下候

但同所境目江郷士兩人罷出居御道案内申上候

一同所御用聞江銀壹兩被下御宿江銀二兩被下候

一平兵衛事妙圓寺江御先例ノ通

御代參勤御香奠金百疋被差上候

一日入時分市來ノ湊江 御着宿

一數馬様御事同所迄爲御見送被成御越候

一御本亭壹軒並御用達衆宿壹軒

一御役人御留守居物奉行書役旅代官壹軒

一御近習役宿壹軒下宿壹軒

一同所郷士年寄萩原五兵衛與頭勝目鹿角左衛門御肴一折進上爲伺御機嫌罷出候間相中江白銀二兩被下候

一同所境目江郷士兩人罷出御道案内申上候

一御用聞江銀壹兩御本亭主江金百疋被下候

一御兵具方足輕福嶋勘助此方足輕篠崎傳左衛門大野源四郎今晚ヨリ夜通御先ニ罷通御先荷相通シ候左候而御晝休ノ場所ニハ一膳飯用意爲致置候付都合モ宜候

正月九日終日霰

一今曉七時前市來湊 御立串木野之内木場之茶屋ト申所江 御小休亭主

江銀壹兩被下候

一限之城ノ内向田町江 御休御書飯被召上

一同所郷士年寄與頭爲伺 御機嫌御肴類進上其上當所ノ儀ハ白砂相ハハ掃除旁格別ノ氣入ニ相見得候付夫丈御目録等モ相重メ被遣候

一金子貳百疋 郷士年寄與頭江

一煙草三拾包 諸役々江

一白銀壹兩 御用聞江

一白銀貳兩 御本亭主江

一同 貳兩 下宿江

一同 壹兩 浦役人平山叶納右衛門江

一金子百疋 御船頭方

一同 百疋 岩屋松兵衛

但此岩屋ニハ加治木町江縁邊有之者ニテ御主人様同様ノ心得ヲ以テ兩種進上致候付御目録被成下候

右ノ通被下候

一白銀二兩

一煙草二十包 瀬崎

但兩種進上付右通被下候尤瀬崎ハ先年御物ヨリ暫被爲入候

郁君様江相付此御方參居候人ノ由

一北郷宗次郎様ヨリ鯉壹尾御使者ヲ以テ被遣候

一川内川御渡船夫ヨリ水引高城

御通行同所西方江 御小休宿亭主江銀貳兩被下候

一同所郷士年寄伺 御機嫌罷出白銀貳兩且御用聞江銀壹兩被下候

一幕時分阿久根町川南源兵衛所江

御止宿亭主江金百疋被下候亭主ヨリ御取肴御銚子致進上候付御宿料外ニ金百疋被下候且御次通江モ御肴差出候付貳朱壹片被下候

一郷士年寄與頭ヨリ兩種致進上候付金百疋被成下候

正月十日 曇

一今曉七時阿久根 御立高尾野ニテ人馬繼替右宿屋ニテ所役江白銀貳兩被下候

一晝時分出水ノ内米之津江 御休御書飯被爲濟米之津御宿松崎源兵衛江

銀壹兩被下候出水地頭代三原源五左衛門殿江金貳百疋郷士年寄與頭江

金百疋無程薩肥境木之涯江暫時御將机被爲掛七半過水俣江 御着宿亭

主齋藤百次江金貳百疋被下候且平兵衛宿薩摩屋加兵衛ニ而候

正月十一日 曇

一今曉七時水俣 御立津奈木ニテ人馬繼替 御小休宿亭主江青銅貳拾疋

被下湯之浦人馬繼替御晝休宿亭主江金百疋被下夫ヨリ津奈木太郎佐敷

太郎赤松太郎ノ三坂無程小田之浦田之浦 御通行日入時分日奈久江

御着宿亭主薩摩屋俊右衛門ヨリ酒取肴進上ニ付金三百疋被下候

正月十二日 半天

一今曉七時日奈久御立ニテ萩原船渡馬繼替御立宿松田榮吉江青銅貳拾足被下小川ニテ人馬繼替御休宿亭主池田清藏江金子百足被下又宇土ニテ人馬繼替御小休宿亭主江青銅貳拾足被下候

一日入時分川尻江御着宿亭主山城屋甚次郎江金子貳百足被下候

正月十三日 曇寒風

一今曉七時前川尻御立未明ヨリ藤ノ茶屋江暫時御立宿亭主江白銀貳兩被下候今日細川越中守様川狩トシテ右川尻江御越ノ由前晚ヨリ承置御中途御行逢無之様ニト御見合被成候處此方様御通行ノ事最早熊本江モ相知レ候哉越中守様御方ニモ此御方様御通行ノ上可被成御出殿トノ趣御先番衆ヨリ御用達衆被致承知候付即藤ノ茶屋御立ニテ熊本城下御通り植木之御飯屋江御休御飯屋番人江金子百足被下候

一今晚ハ南之關御泊ノ賦候處右旁ニ付時刻相移其上雨降ニ而宿賦相替山鹿江御泊相成候當驛御宿亭主小倉屋宗右衛門江金貳百足被下候平兵衛宿博多屋太右衛門ニテ候

一御休泊相替候付追觸差出候

追觸

人馬

但先書ニ申達置候先觸ノ通

右者薩州鳴津又八郎江戸出府ニ付先達而先觸ヲ以テ宿割ノ通止宿ニテ致通行候付驛々人馬繼立給度段申達置候處滯ニ相成今夜當驛江致止宿明日ヨリ別紙宿割ノ通致通行候間人馬無滯繼立可給此段追觸ヲ以テ申達候以上

山鹿止宿
鳴津又八郎内

正月十三日

新納平兵衛

山鹿驛ヨリ
小倉驛迄

問屋役人衆中

覺

正月十三日

山鹿泊 南之關休

十四日

羽大塚泊 松崎休

十五日

内野泊 木屋之瀬休

十六日

小倉泊

以上

右山鹿驛問屋場江爲持候様宿亭主江相渡候也

正月十四日 雨天

一今曉七時分山鹿驛御立肥井町ニ御小休宿亭主江青銅貳拾足被下候

一南之關御休宿亭主ニ熊市之進松風屋喜助江金子百足被下候内夏^{百足ハ宿料}準^{夏ハ準}等^{冬ハ準}體

一筑後ノ内原之町ニ而人馬繼替御立宿薩摩屋休兵衛江青銅貳拾足被下候

一瀬高ノ柳川様御假屋江御小休人馬繼替御假屋番江銀三匁四分五厘被下候

一暮時分羽大塚江御着久留米様御假屋江御止宿番人久保彌三郎江金子貳百足被下候

一銀貳兩 一煙草拾包

右木屋之瀬ノ通シ陸尺ノ者共御雇入ノ願趣申出候得共其通難被仰付候付右通被成下候而申宥差返候

正月十五日 半天小雨節々降

一今曉七時過羽大塚御立府中ニテ御小休御亭主薩摩屋伊兵衛江銀壹兩被下候

一筑後ノ内松崎ニテ御休御宿亭主柳川屋休八江金子百足被下候

一山家ニテ福岡ノ御茶屋江御小休薩摩茂右衛門江銀壹兩被下候

一石火ニテ御小休宿亭主江青銅貳拾足被下候

一冷水峠茶屋御小休同斷被下候

一同所峠ニテ夜入壹里半程御越五ツ時分筑前ノ内内野江御着御宿亭主百留榮六江金貳百足下候平兵衛宿長崎屋伊右衛門ニ而候

一左近尤六右衛門殿ニハ今晚夜通シ小倉へ船御借入差引方トシテ被差越

候尤御先代御登ノ節此方ヨリ留守居モ差越候筋ニ相心得候付差越咎候
得共夜通殊ニ急ノ事ニテ人馬等却テ面働ニ候間左近允氏一人御越給候
様承應其意候

正月十六日 雨

一今曉七時前内野御立飯塚江御小休御宿薩摩屋喜兵衛江銀貳兩被下候

一岩鼻ニテ御小休亭主江青銅貳拾疋被下候

一木屋之瀬御休御宿石橋休太郎江金百疋被下候且鴨其外休太郎ヨリ進ニ

ニ付同百疋被下候

一黒崎ニテ人馬繼替御立宿江銀貳兩被下候

一右黒崎手前ヨリ兩降夜道三里程御越ニテ四ツ時分豊前小倉村屋銀右衛
門所江御着宿御膳進上並御吸物御銚子御取肴差上御用達衆御役人其外
ヘモ取肴銚子差出且船借入旁世話致禮分トシテ金三百疋御宿料金三百
疋被下候

一御中途川御渡シ船御借入相成候禮分トシテ青銅三十疋被下候

一御肴 鮮鯽一折

一小壺 大明飴一

村上銀右衛門

右ノ通進上致候

一刻煙草拾五包

右御宿亭主銀右衛門江平兵衛ヨリ被遣候尤銀右衛門ニハ此前ヨリ知
人ニテモ有之候間外ニ金子百疋平兵衛心入ヲ以テ差遣候

一刻煙草三十包

右士以上惣御供廻ヨリ同斷

正月十七日 曇

一今日晝時分ヨリ御乗船被遊賦候處向風ニテ御船難差上段船頭ヨリ申出
七半時迄モ同斷ニテ空敷御滞在

一平兵衛宮内次郎左衛門壹岐孫左衛門暮前ヨリ御用達衆方江酒肴爲持被
差越候

一金三兩壹步貳朱

足輕拾八人

人足九人

右鼻紙代トシテ當所ニテ被成下候

御船賦

一番船

御座船

御上壹人

御供九人

本田郷兵衛

安山武左衛門

木佐木新右衛門

松山利左衛門

大場養心

根占三世

上床喜左衛門

堅山半助

児玉休助

丸田彌七左衛門殿

左近允六右衛門殿

右小者貳人

御兵具方

足輕五人

人足 市太郎

合拾人

三番船

新納平兵衛

壹岐孫左衛門

水間勘兵衛

伊藤彌左衛門

足輕四人

平兵衛

下人貳人

人足 貳人

四番船

合拾貳人

宮内次郎左衛門

足輕八人

人足三人
合拾貳人
五番船
宇都宮勤左衛門
壹岐平八
法元仲藏
入枝甚左衛門
中摩平助
西田次郎太
足輕四人
人足三人

合拾三人
右五艘御借入ニ相成船仕舞等爲致候
一船中夜具ノ儀村上方ヨリ載付代拂ニ相成候
一椀具其外日用ノ品々取入銘々乗七付ニ相成候

正月十八日
一今日四時小倉御立御乗船晝時分マテハ風ニ而候處晝過ヨリ漸々風吹起夜入候テモ不吹止夜明比迄周防灘凡四拾里位ノ海上走り帆に而順風宜候處次第ノ風吹止候

正月十九日 半天
一日出時分ヨリ風ニテ四ツ時分迄漕船周防灘通晝前ヨリ風強吹起順風ニテ日入時迄同斷夜入候而吹止ニ相成漕方ニテ候今朝ヨリ今夜ニ掛海上凡三拾里程參候由船頭共申候

正月廿日 半天
一今日順風宜四ツ時迄走帆九ツ時ヨリ風吹止備前ノ内江暫時沙掛ニ而晝過ヨリ漕出暮時ヨリ小雨降向風ユヘ漕通シカタク播州ノ内室ノ前沙掛凡拾里餘爲參由

正月廿一日 雨後晴
一日出時分ヨリ帆ヲ揚順風追々相送播磨ノ内明石須摩灘暫時ノ間走通り晝時過大坂川口江御入津夫ヨリ川登ニ而七半時過大坂薩州御屋敷ノ下江御着船菱刈七左衛門殿永井清左衛門殿御出迎旁御世話被申上右御屋

敷内御客屋江夜入御着宿尤御用達衆並平兵衛其外ニハ御屋敷支配宿々ニテ所へ着宿ニテ候虎屋讃岐屋ニテ候

正月廿二日 曇

一今日大坂御滞在御注文品物等取束旁明日伏見迄川登等ノ御手當ニテ候一鯉節一箱 一御樽一

平八子息

加藤十兵衛

右大坂江差越居候由ニテ爲伺御機嫌右通進上ニテ候

一御肴代三百足

一刻煙草捻蓋十二箱

一久米縞壹端

菱刈七左衛門様

一御肴代貳百足

一刻煙草五十包

一麻上下地壹具 牡丹御紋付

但此上下ノ儀ハ此前ヨリ内願モ爲有之由ニテ御國元江茂被申上候由

幸此節御出府付外品相混御土産ニ被遣候事

永井清左衛門殿

右者先日ヨリ旁御世話被成候ニ付右通被遣候尤先日大坂御留守居死

去ノ由ニテ跡職ノ儀万端菱刈氏取扱ノ由

一刻煙草拾包宛

濱村孫太郎

山崎屋市左衛門

中嶋屋喜右衛門

太原万右衛門

右者兼而御立入ノ由ニテ扇子箱等進上致候付御返シトシテ被遣候

一白銀貳兩

一刻煙草拾包

大坂御客屋預

伊藤休右衛門

一銀貳兩

御用聞

一刻煙草拾包

平兵衛

一金子百疋

一桑手拭一

一刻煙草拾五包

惠比須屋
八郎左衛門代

吉兵衛

右者兼而御用屋ニ付御菓子箱致進上伺御機嫌申上候付右通被遣候
一金貳兩貳歩

福島勘助

古川定右衛門

外ニ 三人

右者道中苦勞料トシテ壹人ニ付貳歩宛被下候

送狀

一銀貳拾貳貫四百六匁五分七厘三毛

内百三拾七匁四分貳厘四毛

出水三里ノ増急料五拾六人賦

拾壹匁三分六厘九毛

右道中靜料拾四人分

八匁五分七厘四毛

右道中乘馬貳疋飼料

三貫五百七拾三匁三分六厘

九州路急料五拾六人賦

五百七拾三匁三分

右道中靜料拾四人分

八拾壹匁

右道中乘馬貳疋飼料

六貫百七拾六匁五分貳厘

中國路急料五拾六人賦

八百三匁八分六厘

右道中靜料拾四人分

百八匁

右道中乘馬貳疋飼料

九貫八百四拾三匁壹分七厘六毛

東海道増召込ル急料五拾六人賦

九百九拾匁九厘九毛

右道中靜料拾四人分

九拾九匁

右道中乘馬貳疋飼料

上下七拾人

鳴津又八郎殿

役人

一銀壹貫五拾壹匁七分三厘四毛

内四匁九分八毛

出水筋三日ノ増急料貳人分

壹匁六分貳厘四毛

右道中靜料貳人分

百貳拾七匁六分貳厘

九州路急料貳人分

八拾壹匁九分

右道中靜料貳人分

貳百貳拾匁五分九厘

中國路急料貳人分

百貳拾壹匁九分八厘

右道中靜料貳人分

三百五拾壹匁五分四厘貳毛

東海道増召込ル急料貳人分

百四拾壹匁五分七厘

右道中靜料貳人分

旅用達

上下四人

丸田彌七左衛門

一銀三百九拾貳匁貳分九リ四毛ツ、

内貳匁四分壹リ八毛

出水筋三日ノ増急料壹身

六拾三匁八分壹リ

九州路急料壹身

百拾匁貳分九リ五毛

中國路右同

百七拾五匁七リ壹毛

東海道増召込ル右同

御兵具方足輕

福島勘助

古川定右衛門

右者江戸表江御用有之急ニテ明八日御當地被差立候旨御證文ヲ以テ被仰渡候間御賄料トシテ右ノ通相渡候若出入モ候ハ、如御法可被申渡候

但彌七左衛門事四人賄料被成下候旨被仰渡候

亥

高奉行

正月七日

喜入九郎

大坂

御留守居衆

江戸

物奉行衆

本文ニ付

銀貳百三拾三匁壹分四リ五毛

右者又八郎殿事道中陸尺相渡候ニ付テハ御賄料ノ内輕尻賃差引相渡答候處無差引相渡候付其許ニテ御法ノ通可被申渡候此旨及御問合候以上

亥正月七日

高奉行

江戸物奉行

上下五十六人

右者又八郎殿此節江戸出府ニ付現人數右ノ通御座候以上

役人

新納平兵衛

亥正月七日

此表於爰許何立モ不相渡候間於其許如御法可被申渡候以上

亥正月廿二日 大坂手形所 菱刈七左衛門

江戸詰

物奉行衆

手形賦方

銀壹貫四拾目

通陸尺八人

但壹人ニ付百三拾目ツ、

鳴津又八郎殿

役人

右者江戸江御用有之候間出府被仰付大坂ニ而東海道通陸尺賃入札申渡候處右賃銀落札相成候段見聞役福島半之進證印見届候間右ノ通可被渡也

亥正月廿二日 菱刈七左衛門

藏役人

此節鳴津又八郎殿江戸出府付於御國許九州路並中國路陸尺賃銀申請後大形ノ至奉存候右ニ付送状相渡不申候間九州路中國路賃銀ノ義ハ於御國許申請送状差遣候様申越候付大坂ヨリ江戸迄ノ陸尺賃銀御法ノ通相渡候様被仰渡奉存此段申上候以上

御用達

正月廿二日

丸田彌七左衛門

左近允六右衛門

御手形所

送狀

銀壹貫四拾目

通陸尺八人

壹人ニ付百三拾目ツ、

島津又八郎殿

役人

右者江戸江御用有之候間出府被仰付通大坂ニテ東海道通陸尺
賃入札申渡候處右ノ通落札如御法可被申渡候以上

但於御國許下兩道中陸尺賃不申請段用達ヨリ申出候付此段
爲御心得申越候 大坂手形所

正月廿二日

菱刈七左衛門

江戸

物奉行衆

去ル十七日小倉ヨリ仕立ニテ御書並御左右申越候間相達爲申答ト存申
候於其許文清院様其御外様益御機嫌能被遊御座恐悦奉存候
旦那様御事去ル十七日小倉ヨリ

御乗船ノ賦候處北東風ニ而御船難差上段申出當日御滞在翌十八日四時
過被遊

御乗船候處順風宜終日終夜ニ四拾貳里程走り翌十九日同様ノ向ニ而二十
日ニハ風並少シ違ヒ安藝ノ内ヒフ之近邊ニ而汐掛又備前ノ内大たふ江
暮過ヨリ御船掛昨二十一日順風ニ而三拾貳里程走り大坂川口迄七半過
御入夫ヨリ大坂御屋敷ノ下マテ夜入過御着船ニテ右御屋敷御客屋江御
泊益御機嫌能被遊御座候右御船壹艘外ニ四艘ニテ御船ノ前後ニ追々着
船ニテ餘程宜御都合御座候今二十二日大坂

御滞在明二十三日川登ニテ伏見御泊其外諸所御泊ニテ無御滞候得ハ來
月六日江戸御着ノ御手當御座候

一大坂御屋敷菱刈七左衛門殿永井清左衛門殿詰居ニテ旁御世話被成候
右ノ通御左右申越候間

御惣方様江可被申上候此段申越候以上

正月廿二日

新納平兵衛

新納仲右衛門殿

曾木彌五左衛門殿

川上休右衛門殿

江田吉右衛門殿

曾木新六殿

一筆啓上仕候各様御揃彌御堅勝可被成御座珍重御儀奉存候然者又八郎
殿事出立前ニハ段々御世話被下系仕合奉存候中途無滞去ル十八日小倉ヨ
リ乗船昨二十一日被致着坂今二十二日滞在明日ハ川登ノ筈御座候無滞
候ハ、來月六日江戸着ノ賦御座候其上下御頼中様江茂御禮旁可申上候
得共其内是迄ノ一左右申上候間御序ヲ以テ被仰達被下度御頼申上候以
上

正月廿二日

新納平兵衛

吉川源右衛門様

蒲生彦左衛門様

新納休右衛門様

一筆致啓上候各様御揃御堅勝可被成御座珍重奉存候然者
又八郎様御中途御機嫌能被成
御通行小倉ヨリ

御通行小倉ヨリ

御乗船順風ニテ昨二日 御着坂ニテ殊ノ外御船中御都合宜私共ニ至
別而仕合之至御座候先者此等之趣御左右旁爲可申上如斯御座候以上

正月廿二日

左近允六右衛門

丸田彌七左衛門

新納仲右衛門様

曾木彌五左衛門様

川上休右衛門様

曾木新六様

右御左右書壹通並外三通文箱入付ニテ御側方御用物入小柳箇入付ニ
テ薩州江届方ノ儀永井清左衛門殿江頼置候

入札之覺

從伏見伊勢路通東海道江戸御屋敷様迄御道中日數十三御泊十四日御定

- 一 八人掛陸尺壹人ニ付賃銀百三拾八匁ツ、
- 一 御定日數相延候ハ、本賃銀日割ヲ以可差出候
- 一 御道中船川越賃銀ノ義ハ御屋敷様ヨリ御拂可被下置候
- 一 佐谷御廻リ被遊候ハ、壹人ニ付拾八匁ツ、可被下置候
- 一 御夜道御追越御出戻リ御廻道御脇道御座候ハ、一里壹人ニ付壹匁八分宛可被下置候
- 一 小判六拾目替ヲ以テ御勘定可被下置候
- 右ノ通御直段ヲ以テ御用向被仰付被下候ハ、慥ニ御請負奉申上御太切ニ可奉勤仕候以上

亥

正月廿六日

尾張屋

七兵衛

薩州様

御役所

通日雇御請負證文之事

- 一 從城州伏見江戸御屋敷様迄東海道伊勢路通日數十三泊十四日限り其餘日重ニ相成候ハ、本賃銀割合ヲ以可被下置候
- 一 八人掛御陸尺壹人ニ付銀三拾五匁ツ、
- 一 御召替御駕籠壹人ニ付銀六拾五匁ツ、
- 但六貫目持過貫目本賃銀割合ヲ以可被下置候
- 一 上日雇壹人ニ付銀九拾五匁ツ、
- 一 三人掛御駕人壹人ニ付銀百拾匁ツ、
- 一 平日雇壹人ニ付銀六拾五匁ツ、
- 但御荷物六貫目持過貫目御座候ハ、本賃銀割合ヲ以テ可被下置候
- 一 枚方御廻被遊候ハ、壹人ニ付銀七匁五分ツ、
- 一 佐谷御廻リ壹人ニ付銀四匁五分ツ、
- 一 主取壹人ニ付銀百三拾五匁ツ、
- 一 京都御廻リ壹人ニ付銀四匁五分ツ、

- 一出戻追越廻路平地壹里壹人ニ付銀貳匁ツ、
- 一 當年格別諸色共高直ニ付
- 一 旅籠代共御増壹人ニ付銀拾五匁ツ、
- 一 船川賃銀ノ義ハ

旦那樣ヨリ御拂可被下置候

一小判金六拾匁相場ヲ以テ御勘定可被下候

右ノ通御定ヲ以テ御請負奉申上候處實正ニ御座候然上ハ人柄相撰我雜ケ間敷儀無之樣御供相勤サセ可申候萬一途中ニテ取逃欠落等仕候ハ、其品々相改早速上納仕人代り差上少モ御差支無御座樣可仕候其外何樣ノ儀出來候ハ、御屋敷様江聊御勞配相懸申間敷候爲後日御證文依而如件

嘉永四年亥正月 政田屋嘉兵衛代

政田屋 權次郎 印

御役人衆中様

伏見川登御船賦

- 一 御召船壹艘 但械差拾人
- 一 御用達衆船壹艘 但械差拾人
- 一 御役人船壹艘 但書同斷
- 一 足輕以下船壹艘 但書同斷

正月廿三日 半天

一 今朝六時過 御乗船被爲在順風ニテ帆ヲ揚尤帆載付無之船ハ水主共上陸ニテ長綱ヲ以引登無風候ヘハ械差ニテ船縁ヲ走候而引登ニ而候
一 日八時分伏見江 御着宿御本亭兼春市之丞ヨリ御膳進上並御吸物御銚子取着等差出候付爲御返左ノ通

一 白銀壹枚 御宿禮 一金子百疋

兼春市之丞江

一 銀壹兩宛

御用達衆宿

一 御肴代百疋 一千代紙煙草貳拾包

京都御留守居 田尻次兵衛様

一金子百疋 一千代紙煙草貳拾包

伏見御假屋守

友野七郎左衛門様

右御機嫌伺トシテ右兩人ヨリ扇子一箱宛進上有之候尤友野氏ハ爲伺御機嫌參上有之候田尻氏江被遣物ノ儀ハ兼春江相頼置候追而京都江差送ノ筈候也

一銀貳兩宛

大坂船方

吉田松之助

外二壹人

右川船ニ付旁致世話候付被遣候

一金子百疋

一煙草貳拾包

惠美須屋

孝助

右者多年ノ手代ニテ御用相勤候ニ付爲伺御機嫌御菓子一箱進上致候付右通被下候

正月廿四日 曇

一今朝六時伏見御立觀修寺村御小休御宿亭主大黒屋伊兵衛江青銅四拾疋被下候

一追分ニテ御小休青銅四拾疋被下候

一大津ニテ御休亭主富田屋江金百疋被下候

一勢田ノ町江御小休亭主かき屋江青銅四拾疋被下候

一草津江七半時御着宿亭主田中九藏ヨリ鞭貳本進上致候付金子貳百疋刻

煙草貳拾包被下候

一金子百疋

一刻煙草拾五包

問屋役人江

右御荷方貫目改當驛ニテ掛占有之進物トシテ古川定右衛門ヨリ引渡候

正月廿五日 半天

一今曉七時過草津御立梅之木御小休御宿亭主江青銅四拾疋被下候

一石部ニテ御小休御宿亭主江同斷被下候

一たる尾川ニテ御小休同斷被下候

一水口ニテ御休御宿亭主松葉屋江金百疋被下候

一大野御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一土山ニテ御小休ニテ同斷

一今暮時分伊勢ノ内坂之下江御着宿亭主松屋嘉兵衛江金貳百疋被下候

正月廿六日 半天

一今曉八時過坂之下御立未明ニ關之地藏手前ニテ御小休御宿亭主江青銅四拾疋被下候

一龜山ノ内東林ニテ御小休御亭主江同斷被下候

一西富ニテ御休御宿亭主兒玉宇右衛門江金子百疋被下候

一大坂御城代土屋采女正様御交代ニ付土岐豊前守様御檢使トシテ御越今日御通行ノ段相聞エ中途御行逢ニ不相成様都合向有之候

一杖突坂ニテ御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一宮之前ニテ御小休亭主江同斷被下候

一富田ニテ御小休御宿亭主同斷被下候

一おふけ村ニテ御小休御宿亭主新屋淺右衛門江同斷被下候

一暮時分桑名駿河屋源七所江御着宿金貳百疋煙草貳拾包被下候

一宮原彈正大弼様京都江

公方様ヨリ年頭ノ爲御祝儀御登ノ由ニテ御本亭西隣江御宿札有

正月廿七日 半天

一今朝日出時分桑名御立御乗船尤御召船並御供船迄都合六艘御借入ニ相成尾張ノ内宮江御渡津畑之西國屋八郎兵衛所江暫時御休金百疋被下候一日入前鳴海大和屋佐兵衛所江御着宿金子貳百疋被下候平兵衛宿湊屋宗右衛門ニ而候

一桑名ノ船頭共六艘相中江金貳歩朱褒美トシテ被下候尤船賃錢ノ儀ハ御召船壹艘四貫八百拾四文外五艘拾八貫七百文餘船肝煎次郎左衛門三郎右衛門江世話料白銀貳兩被下候

一鳴海驛ニテ御取入反物七品ノ内六品御預給候様大坂永井清左衛門殿宛ニテ本田郷兵衛壹岐孫左衛門ヨリ頼越候尤尾州有松竹田庄太郎江相渡候

正月廿八日

一 今曉七時分鳴海御立ニテ地鯉鮒山形屋次郎右衛門所江御小休青銅十疋被下候

一 大濱ノ中根源六所江御小休亭主進上物致候ニ付金百疋並御宿禮金百疋被下候

一 同所高井善兵衛御先代御本陣差上候譯ヲ以進上物致候付銀壹兩被下候

一 岡崎ニテ御晝休御宿亭主大津勘助江金百疋被下候

一 藤川ニテ御小休角屋佐七江青銅四拾疋被下候

一 寶藏寺ニテ御小休青銅四拾疋被下候

一 日入前御油江御着宿亭主鈴木善十郎江金貳百疋被下候平兵衛宿伊勢屋政吉ニテ候

正月二十九日 半天

一 今曉七時御油御立ニテ未明稻村御小休宿亭主市若屋文七江青銅四拾疋被下候

一 二川ニテ御小休青銅四拾疋被下候

一 白須賀ニテ京福寺江御立寄御小休右寺江青銅四拾疋被下候

一 篠原ニテ同斷曾木喜兵衛江同斷被下候

一 荒井ニテ田代才兵衛所江御休才兵衛ヨリ御酒御取肴並御膳迄進上致候

一 付金子百疋御宿禮トシテ金貳百疋其外旁世話致候付金百疋被下候

一 御本陣足田八郎兵衛着進上致候付金百疋脇本陣足田彌五助ヨリ同斷付

金五拾疋被下候

一 當御關所御通行ノ儀ニ付文化六年久照公御通行ノ節ハ御步行ニテ被遊

御通行候段帳留相見得候付此節ノ儀何様可有之哉一先御宿亭主才兵衛

ヲ以御番所江申込相成候處御家老ニテモ御勤被成候御家柄ニテ候哉ト

御尋ノ段承候旨才兵衛ヨリ申出候付家老職等被相勤家ニテハ無之薩州

ニテ一門家ト差立居勿論英翁ニモ當家ヨリ被出候子孫ニ候段申出呉候

様申合其段申込ニ相成候處於其儀ハ 太守様御同様ニ御あいしらい可致

候間御乗通可被成トノ事ニ而候併御番所役々出席無之候而不相成候間

其内御扣追而案内可有之旨承候段申出彌御乗通ノ筋ニ手筈相調居候折

柄江戸詰御家老將曹様ヨリ御關所御乗通ノ儀公邊江御願可被仰上事候

得共其願書難被差出御譯合有之候付此度ハ御下乗ニテ御通行無御座候

而ハ相成申間數段當驛江御飛脚御文箱御到來ニテ被遊御承知候得共最
早右通御手筈相調候上ノ儀其段ハ江戸御着ノ上可申譯ト御用達衆決着
有之然處最早御通行被成候而宜段申來直ニ才兵衛所御立御番所御乗通
被爲在候處出役ノ御番頭ヲ始惣下座有之尤御番所ノ前ニテ御簾ノ戸ヲ
音高々ニ御近習役ヨリ引候而御通行諸御道具モ惣テ相立候而罷通候
一 右御番所通直ニ 御乗船被遊候

但右御船ノ儀松平伊豆守様ヨリ御馳走向トシテ被差出候段相違右江
御乗船被爲在候御關所ノ儀モ右伊豆守様御預ノ由

松平大隅守一門家

鳴津又八郎

右者今日當驛被致通行候儀相違無之候以上

嘉永四年

旅用達

左近九六右衛門

亥 正月二十九日

丸田彌七左衛門

問屋場

役人中

右書付御關所江差出ニ相成候

一 金子貳百疋宛

一 金子百疋宛

番頭兩人

給人三人

一同百疋

一同貳百疋

徒目付貳人

御先手同心八人

一同百疋

一同百疋

御先拂四人

町奉行衆

一同五十疋

一同百疋

町奉行付同心

船頭

一 金子貳百疋

一 金子三百疋

水主相中

御船ノ御禮

右御船ノ儀ハ伊豆守様ヨリ御馳走振ニテ被差出候

一 御召船外ニ拾五艘借切代金壹兩貳朱ニテ候

一御船渡順風宜御着船舞坂御通行夜入過遠州濱松江御着宿亭主伊藤平左衛門江金貳百疋被下候平兵衛宿ハ竹屋武兵衛ニテ候

正月晦日

一今曉七時過濱松御立今日高家旗本武田左京太夫樣京都登ニテ御通行ノ由相聞エ前以テ濱松ノ内阿んま村江暫時被遊御扣御行逢無之樣御見合ニ相成候右ノ宿亭主江青銅四拾疋被下候

一左京太夫樣無程御通行相濟候付直ニ御立

一天龍川御渡船借入船四艘代金壹步差出御渡有之候

一池田ニテ平野太郎兵衛所江暫御小休青銅四拾疋被下候

一同所ノ内近道御通行有之御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一見付ニテ大塚屋源八所御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一袋井大田八兵衛所江御休金百疋被下候

一原川ニテ御小休伊藤又左衛門江青銅四拾疋被下候

一掛川ニテ同斷松屋又右衛門江同斷被下候

一同所ノ内出羽屋友八所江同斷被下候

一日入時分日坂江御着宿亭主黒田屋武兵衛ヘ金貳百疋被下候平兵衛宿思美須屋武兵衛ニ而候

二月朔日

一今曉六時前日坂御立小夜中山御通行菊川御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一嶋田ニテ御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一田中領ノ内ニテ岩崎屋御小休同斷被下候

一藤枝ニテ御休村松伊右衛門江金百疋被下候

一岡部ニテ御小休青銅四拾疋被下候

一大井川御渡ニ付御乗物ハ高欄臺ニ請上川越人足拾餘人ニテ荷ヒ渡リ候尤御近習役安山武左衛門御小納戸木佐木新右衛門御小性壹岐平八中摩平助晒繻絆壹ツ脇差壹本ニテ高欄臺ニ取付川渡御供ニテ候

但川札四百四十枚買入壹枚八拾四文ツ、御上御乗物十六枚賦其外荷物大小ニ應シ候壹人分壹枚川越方都合三拾七貫文餘尤前以川越方差引トシテ伊藤彌左衛門足輕壹人召列差越居候

一其外御供惣人數ハ銘々川越人共肩ニ跨リ相渡候

一川越陸渡御供ノ人數左ノ通大坂ニテ御作渡ニ相成候

一晒白繻絆壹枚ツ、

一右同湯手帶壹筋ツ、

一刀負用右同湯手

一下帶

右壹度ニ御近習役壹人御小納戸壹人御小性兩人都合壹度ニ四人宛合

八人分出來

一字津之山ニテ忠左衛門所御小休青銅四拾疋被下候

一丸子ニテ桔梗屋左衛門所御小休同斷被下候

一安部川御渡川是又御乗物ハ高欄臺請上御供廻步渡大井川ノ通ニテ無御

滞被爲濟候安部川越川札請取書代金壹兩貳分貳朱ト錢四百四拾五文差

出候川札壹枚代錢四拾五文宛ニテ候

一金子百疋 駿河町奉行 三好大膳殿同心

吉田三之助

岩崎 清次

右兩人御渡ニ付取締トシテ出役ノ段申出候付被遣候

一同所龜屋五郎左衛門所御小休亭主ヨリ安部川餅進上候付金子五拾疋被下候

一金子百疋 一煙草貳拾包

町奉行方

同心

右者府中ニテ御荷物貴目改ニ付出會有之候間被下度旨表方足輕古川

定右衛門申出候ニ付取仕立同人江相渡候處都合能受御改候段申出候

一夜入五ツ時前府中平尾清三郎所江御着金貳百疋被下候平兵衛宿松葉與左衛門ニテ候

一金壹步 通陸尺棒頭壹人

一同三步貳朱 右同陸尺 七人

一同壹步 通人足駕籠昇九人相中江

右者大井川首尾能御越付祝儀トシテ被下候

一貳朱金壹切

一錢貳百五拾六文

右同斷ニ付御供廻中江被成下候

二月二日

一今曉七時過府中御立小吉田ニテ御小休亭主因幡屋万右衛門江青銅四拾疋被下候

一江尻ニテ御小休同斷被下候

一興津ニテ御小休同斷被下候

一薩埵峠御越倉澤ニテ御小休川崎勘兵衛所同斷被下候當所ハ東海道第一

景色ノ場所ニテ富峰ノ晴景ニテ筆ニ尽シ難ク暫御眺望御銚子名物ノ貝

類被召上候而御立

一由比ニテ御休温鈍屋四郎兵衛江金子百疋被下候

一豊後ト云新道ノ茶屋半助所御小休青銅四拾疋被下候

一岩淵ニテ御小休亭主常盤彌兵衛ヨリ栗粉餅進上ニ付御宿料相混銀壹兩

被下候

一富士川御船渡御都合能被爲濟候

一右御船渡差引御船方役人相中江金子五拾疋被下候

一日入時分吉原江御着宿亭主野口祖右衛門江金子貳百疋被下候

二月三日 雨

一今曉七時吉原御立柏原ニテ御小休青銅四拾疋被下候

一原ニテ御小休大和屋五郎兵衛江青銅四拾疋被下候

一沼津ニテ山王社庭江御小休ニ付杜前ノ茶屋江御供廻相休候宿江同斷被

下候

一三嶋ニテ御休亭主樋口傳左衛門江金子百疋被下候御肴一折致進上候付

青銅四拾疋被下候

一三ツ谷村ニテ御小休富士見屋伊左衛門江青銅四拾疋被下候

一山中ニテ御小休亭主水戸屋源兵衛ヨリ御銚子取肴赤飯進上ニ付金貳百

疋御宿料金百疋被下候

一獵師五人先規ノ通狩支度鐵砲持參ニテ御道案内ニ罷出兎壹疋進上致候

付金子百疋被下候

但市川三郎兵衛廣野助兵衛栗田久左衛門望月傳右衛門藤原七左衛門

一宗閣寺ヨリ寒晒葛粉進上付銀貳兩被下候

一笹屋助左衛門ヨリ寒晒團子葛粉壹袋進上付青銅四拾疋煙草七包被下候

但助左衛門儀ハ御先代御通行ノ節御小休相成候子孫之由

一箱根峠夜入五ツ時川田覺右衛門所江御着宿覺右衛門ヨリ御銚子取肴色

々致進上候平兵衛宿米屋萬右衛門ニテ候

一御用達衆宿並御役人宿江茂銘々銚子取肴差出候

一御側廻御坐候次江茂銚子取肴差出候

一玉子並御銚子取肴塚本庄兵衛ヨリ進上

一御用達衆並御役人宿江茂同人ヨリ銚子取肴差出候

一釣柿壹折 立木市左衛門ヨリ進上

一金子貳百疋御宿禮一同百疋

御本亭

川田覺右衛門

一同百五十疋 一白銀貳兩

一金五十疋

一明日御關所御通ニ付旁御都合御頼ニ付被遣候

一金百疋

一玉子酒取肴進上致候付御返シ

一同五拾疋

一御用達衆並御役人宿其外酒取肴差送候付右ノ通返トシテ被遣候

御關所番

塚本庄藏

一同五拾疋

御出入

立木一左衛門

一今日箱根越苦勞致候付通陸尺共江金子百疋通シ人足駕籠昇共江金子五

拾疋被下候

一同斷ニ付御手足輕中江金百疋被下候

一明日御關所罷通ニ付テハ病氣又ハ足痛等ニテ乘駕籠罷通モ有之由候ヘ

又八郎儀ハ代々 公義御目見致家柄ニ付乘駕ニテ罷通來候間此節モ乘

駕ニテ罷通可申候間其通御都合可給旨塚本庄藏江丸田氏ヨリ被申達候
處致承知候段承居候

二月四日 雪

一今日日出時分箱根峠御立尤御關所御通行ニ付御乗通ノ儀夜前ヨリ川田
覺右衛門塚本庄藏江都合向申含置御關所無御滯御乗通ニテ御通行被爲
濟候尤爲御持御道具等ハ惣而相立御通行御用達衆並御供廻リ手鎚迄茂
同斷相立候左候而御用達衆其外ニモ惣御供ニテ御駕籠ノ脇江差添當所
ニテハ式禮等ニ茂不及御通行有之候

一畑之宿江御小休茗荷屋畑右衛門江金子五十疋被下候

一湯之元江御小休亭主伊豆屋定右衛門江青銅四拾疋被下候

一小田原御休亭主清水金右衛門江金子百疋被下候

一梅澤ニテ御小休亭主大友屋半四郎江青銅四拾疋被下候

一日入時分大磯御着宿小島才三郎江金子貳百疋被下候平兵衛宿柳屋四郎

左衛門ニテ候

一今晚平塚御泊ノ賦候處差支ノ譯有之當驛大磯御泊ニ相成候間其段平塚

ノ間屋役人方江申越候

一今晚ヨリ夜通丸田氏並宮内次郎左衛門踏越候而江戸江被差越候

一金壹歩

主頭
仲吉

一同壹歩

一同三歩貳朱

一同三歩

一同壹歩

通駕籠昇九人相中江
陸尺七人

足輕人足相中江

右者箱根山御越ニ付祝儀トシテ被下候

二月五日 半天

一今朝六時大磯御立南鄉村松屋清左衛門所江御小休青銅四拾疋被下候

一藤澤ニテ御小休時田源右衛門所江御休金子百疋被下候

一掛取ニテ御小休亭主西村佐兵衛江青銅四拾疋被下候

一戸塚ニテ御小休亭主紀伊國助左衛門江青銅四拾疋被下候

一境木ニテ御小休若葉屋長四郎江青銅四拾疋被下候

一七半時分程ヶ谷ノ輕部清兵衛所江御着宿亭主江金子貳百疋被下候

二月六日 半天

一今朝六時程ヶ谷御立神奈川御小休亭主玉川清兵衛江青銅四拾疋被下候

一なまくりニテ御小休亭主藤屋傳七江青銅四拾疋被下候

一川崎ニテ御休萬年屋半七所ニテ御銚子御取肴進上ニ付金子貳百疋被下

外ニ酒肴並飯代貳朱壹切ト錢四拾八文拂候

一同所江福崎平左衛門殿江戸ヨリ御出迎被差越候付御前ニテ御銚子等被

成下候御茶漬ヲモ被召上候付福崎氏御用達衆ニモ差出候

一大森ニテ御小休亭主長谷川仲次郎江青銅四拾疋被下候

一大森江物奉行所書役中村與右衛門殿馬醫松崎甚藏殿御出迎有之候

一品川ノ蒲屋江御立寄御用人川上龍衛様御使番志岐藤兵衛様其外御出迎

被成候御銚子御取肴種々差上候而御膳迄モ差上候丸田氏ニモ御出迎

有之候

一筑後様ニモ御出迎ノ筈候處御足痛ニテ御役人御使者ヲ以御吸物御銚子

御硯蓋等御取立被差上候

一將曹様御使木原次郎殿被參候

一右蒲屋半左衛門江金子三百疋被下候外ニ貳兩壹歩ト錢七百貳拾八文酒

飯代トシテ相拂候

一此節ノ御出府ハ御中途至極ノ御急ニ付爲御持道具等モ過半御引取ニテ

被遊御出府候付御家格不相應ノ御手細ニ付テハ晝ノ内江戸御着ノ儀ハ

御扣夜入御着ノ方可然 思召茂被爲 在御頼衆御吟味茂御同様ノ事ニ

付右蒲屋ニテ御刻限御見合日入時分御立品川邊ヨリ御挑灯ニテ芝御屋

敷江夜入過御着宿尤川上龍衛様友野市助様御家老座書役有馬次郎右衛門

殿物奉行 肝付清右衛門殿 御茶道 重久玄碩殿 新番 松崎平右衛門殿中村與

右衛門殿御見舞被成御着ノ御祝有之四時御立被成候

但右御旅宿ハ先般琉球王子旅宿ニテ候由御祝ニ付御吸物御銚子其外

宿々ノ當座用ノ儀宮内次郎左衛門昨日着ノ上肝付氏杯御相談致御

待受致居候

一金百疋

棒頭壹人

一金子三步貳朱

陸尺相中

右江戸入祝儀振トシテ被下候
御暇被下候

御滞府中別冊有

江戸御下向

一旦那樣御事江戸御勤向被爲濟三月十五日御暇御給付同二十日江戸御發
途ノ御日限被召究御仕舞方彼是御手當有之
一江戸御立御當日ノ御行列立左ノ通

御口之者壹人

御率馬

御先弘

大野源四郎

御馬印

黒木與右衛門

御手人有馬半右衛門

神宮傳左衛門

松田武兵衛

御弓台

御鎧箱

御刀箆筒

御用箆筒

長友勘助

御挾箱

黒熊毛

対御道具

石澤郷助

手替

羽山喜三次

御步行

水間勘兵衛

中村清右衛門

手替

小田清助

御步行

上床喜左衛門

御挾箱

伊藤彌左衛門

御長刀

神宮金右衛門

御小姓

中摩平助

御刀箆

壹岐平八

御小姓

入枝甚左衛門

御刀箆

法元仲藏

御扱首口 壹岐

孫左衛門

御扱首口 宇都宮勘左衛門

御乗物

御小納戸 木佐木新右衛門

御留守居 宮内次郎左衛門

御近習役 安山武左衛門

御手鑓 神宮

御近習役 本田郷兵衛

御小納戸 松山利左衛門

御近習役 安山武左衛門

御醫師 大場養心

御用達 左近允六右衛門

御口之者壹人

御兩掛

同

同

同

御養箱

御茶辦当

御馬

御手人

児玉小次郎

沓籠壹肩

同

挑灯籠壹荷

竹馬 同

桿 小田孫七

御役人

若掌貳人

中村奎左衛門

鐘

草履取

具足箱

臺輪駕籠

ヤ印
 兩掛壹荷 藥箱壹荷
 台輪駕籠貳挺
 手鍵貳本 御乗替駕籠壹挺
 兩掛壹荷 トツカリ箱壹荷
 兩掛貳荷
 モ印

乘駕籠 明長持貳棹
 七挺

繼人足拾壹人
 合通陸尺八人
 合通人足四拾四人
 合繼人足貳拾五人

先觸
 一繼人足貳拾五人
 一繼馬五疋 外ニ貳疋用意

右者薩州鳴津兵庫事此節國許江差越候付明廿日江戸出立別紙宿割ノ通
 致通行候間驛々人馬無滯様御手當可給此旨御案内申達候以上

亥

三月十九日

新納平兵衛

品川 ヨリ
 大津迄驛々

問屋役人衆中

三月廿日

江戸立

同日

程ヶ谷泊

川崎 休
 雪之下 休

廿一日	藤澤泊	大磯 休
廿二日	小田原泊	箱根 休
廿三日	三島泊	原 休
廿四日	吉原泊	由井 休
廿五日	府中泊	藤枝 休
廿六日	金谷泊	掛川 休
廿七日	見附泊	濱松 休
廿八日	荒井泊	吉田 休
廿九日	藤川泊	池鯉鮒 休
四月朔日	宮泊	海上七里
二日	桑名泊	四日市 休
三日	龜山泊	坂之下 休
四日	水口泊	石部 休
五日	草津泊	七里渡り
六日	伏見泊	川下り

七日 龜山御泊

大坂

坂之下御休

八日

水口御泊

石部御休

九日

草津御泊

大津御休

十日

伏見

十一日

同所御滞在

川下り

十二日

大坂御着

右御宿割ノ儀川支旁御滞在相成御休泊

朱書ノ通差當リ被召替候

先觸

一繼人足拾六人

一繼馬拾疋

右者鳴津兵庫此節國許江差越候付明廿一日江戸出立致通行候付驛々人馬無滞御手當可給此旨御案内申越候以上

鳴津兵庫内

三月二十日

坂元里右衛門

品川ヨリ大津迄

驛々

問屋役人衆

右御出立御先々御先荷差通方御都合茂宜候得共御先ニハ

太守様御方御跡荷相殘居候故難差通依之御出ノ御跡ニ差通候方ニ吟味

相成廿一日出立致候

三月廿日 小雨後晴

一旦那樣御事江戸御勤向被爲濟候間去ル十五日ニ御暇御給付今廿日

御立ノ御届前以被仰上置今朝五半時

御發途被爲 在候間爲御見舞筑後様鎌田圖書様川上龍衛様友野市助様西筑右衛門様志岐藤兵衛様其外御役々衆早朝ヨリ御暇乞御出被成候

一御盃立

一御挾肴

右御出立付平兵衛江御盃被下候而御側廻其外頭役江一通ノ御通り被下

直ニ御立

一御行列ノ儀此節ハ爲御率馬貳疋其上對御道具爲御持ニ相成候處格別ノ御備ニテ結構ノ御事ニ而昨日御出立被成候有馬様御行列ヨリモ大キ成方ニ候ト諸人申候由

一品川宿蒲屋之茶屋江御小休同所江筑後様御見舞ノ御使小原四郎兵衛被遣川上龍衛様友野市助様西筑右衛門様志岐藤兵衛様有馬氏肝付氏中村氏ニモ御出有之何レモ川崎迄ハ御送り可被成トノ事故當所ニテハ御銚子御取肴一通り差上候左候而亭主半左衛門江金三百疋被下候

一大森ニテ御小休亭主長谷川仲次郎江青銅四拾疋被下候

一川崎宿ニテ御晝飯休友野氏其外最前ノ御人數同所迄御出御別盃御銚子御取肴種々御膳迄も差出候而頓而御立亭主萬年屋半七江金貳百疋被下候

一なまくりニテ御小休亭主藤屋傳七江青銅四拾疋被下候

一神奈川ニテ御小休亭主玉川清兵衛江青銅四拾疋被下候

一今七半時過程ヶ谷江御着宿亭主藤木四郎兵衛江金貳百疋被下候平兵衛宿大兼子八郎右衛門所ニテ候

三月廿一日 雨天

一今朝日出時分程ヶ谷御立境木ニテ御小休亭主若葉屋長四郎江青銅四拾疋被下候

一戸塚ニテ御小休紀伊國屋助左衛門江同斷被下候

一今日鎌倉御參詣被遊筈候付戸塚御通り過北ノ方江鎌倉道有之尤御用達丸田氏並平兵衛ニハ御先ニ雪之下ト言所迄差越旁御都合有之

一大道村ニテ御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一山之内ト言所ニテ御小休亭主江同斷被下候

一同所ヨリ案内ノ者壹人頼入差越候

一圓覺寺並建長寺佛殿御參詣誠ニ廣大ノ古跡ニ而候

一雪之下ニテ御晝休ヲヨリ鎌倉御兩靈樣御廟所並鶴ヶ岡八幡宮江被遊

御參詣候此時舞殿ニテ御神樂有之候

一金貳百疋 白旗大明神

一同百疋宛 賴朝公御廟所

忠久公御廟所

一白銀三兩 鶴岡八幡宮

一金貳百疋 御神樂料

一同百疋 白旗大明神別當 相承院

一相承院目代富田庄右衛門ト申人雪之下迄參り神樂ニ而茂可被差上哉ノ

旨承候付其通御神樂被差上候樣頼入ニ相成候將又御寶物御拜見ニテモ

可被成ノ旨承候得共通掛ノ事故御廟所參詣迄ヲ被致度候付其儀ハ難被

叶段丸田氏ヨリ被相逢候

一山之内ヨリ頼越候案内者江金五十疋被下候

一雪之下ニテ御晝休亭主大石平左衛門江金子百疋並御案内旁世話致候付

金五十疋被下候

一稻村ヶ崎御小休亭主江青銅四拾疋被下候

一江之島江御越辨財天御參詣御初穂料銀壹兩御進納岩元院宿坊江御立寄

御銚子共被召上宿料金百疋被下候

一夜入過藤澤江御着宿亭主和田七郎右衛門江金子貳百疋被下候平兵衛宿

平野五郎兵衛ニテ候

三月廿二日 曇 夜分大風雨

一今朝六時藤澤御立南郷ニテ御小休亭主松屋清左衛門江青銅四拾疋被下

候

一馬入川御船ニテ御渡川船賃錢金子壹分差出候川渡方世話役三人江銀三

匁被下候

一大磯ニテ御晝休亭主山本林右衛門江金子百疋被下候

一梅澤ニテ御小休亭主大友屋半四郎江青銅四拾疋被下候

一酒匂川御渡川付御乗物請臺ニ載上御供人數モ請臺ニ乘り相渡候川札代

金六兩貳步餘差出候

一同所江大久保加賀守樣御家中塚平内ト申人出役有之且川締方ノ者共兩

三人出張居候付左ノ通被下候

一金五十疋 塚崎平内江

一同五十疋 川締方江

一青銅四十疋 名主江

右ノ通差遣候

一今七時小田原江御着宿亭主清水金左衛門江金貳百疋且進上物付煙草十

五包被下候平兵衛宿枯梗屋伊左衛門ニテ候

三月廿三日 小雨

一今朝日出時分小田原御立湯之元御小休伊豆屋定右衛門江青銅四十疋被

下候

一畑宿ニテ御小休亭主茗荷屋畑右衛門ヨリ進上旁ニ付金百疋被下候

一箱根御番所手前ノ茶屋ニテ御小休亭主江青銀四十疋被下候

一箱根御番所ノ儀最前ノ通御乘通り尤川田覺右衛門御番所迄差越居御都

合致置候由御番所手前迄出迎右ノ趣承候

一箱根峠川田覺右衛門所御晝休

一覺右衛門ヨリ御銚子取肴進上且御次通江茂銚子取肴差出候

一金百疋 御宿料

一同百疋 酒肴ノ禮

一同五十疋 役々ヨリ同斷

右覺右衛門方

一同五十疋 酒肴ノ禮

一同五十疋 役々ヨリ同斷

右塚本庄藏方

一金五十疋 御出入

一青銅四十疋 立木一左衛門

右庄藏一左衛門ヨリ致進上物候付右通被下候

一箱根坂中江山中ノ獵師五人最前ノ通出迎居山中ノ水戸屋源兵衛所迄差

越候間金百疋五人相中江被下候

市川三郎兵衛 廣野助兵衛

栗田久左衛門 望月傳右衛門

藤原七左衛門

一山中ニテ御小休亭主水戸屋源兵衛ヨリ兩種並山鯨草餅伊豆海苔且御改名御祝儀トシテ椎茸山生魚草花進上致候付金百疋御宿料金五十疋被下候

一同所江宗閑寺爲伺御機嫌罷出寒晒團子進上付金五十疋被下候

一同所ニテ笹屋助左衛門罷出進上物致候付青銅四拾疋被下候

但助左衛門ニハ高照院様御出府ノ節御立宿差上候ノ由

一三ツ谷ニテ御小休亭主富士見屋伊左衛門江青銅四十疋被下候

一同所ニテ松雲寺罷出伺御機嫌申上候

一暮時分三嶋江御着宿亭主樋口傳左衛門江金貳百疋被下候平兵衛宿砂糖

屋幸次郎也

一金百疋

政田屋 貞助

一同百疋

棒頭相中

一金三步貳朱

陸尺相中

一同三百疋

駕籠昇相中

右四行箱根越祝儀トシテ被下候

三月廿四日

一今朝六時三島御立沼津ノ内山王社ノ前御野立前ノ茶屋ヨリ湯茶貰候付青銅貳拾疋被下候

一沼津ニテ中村九左衛門所江御小休尤富士川支ノ由ニテ吉原江ハ有馬様

御滞在御泊難被爲成原驛江御泊宿聞合トシテ古川定右衛門被遣候間其内右九左衛門所江暫御扣ニ相成御宿料金百疋且進上物付金五十疋被下候

一原驛江御泊宿宜候由定右衛門罷歸申出九時分前沼津御立原驛江御着宿亭主香貫屋十郎右衛門江金貳百疋且進上物付刻煙草貳拾包被下候平兵衛宿丸屋亦八ニテ候

一今晚吉原御泊ノ賦候處右通差支付當驛御泊ニ相成候故其段吉原問屋役人江書狀ヲ以テ申越候

一明日ハ巳刻ニ川明候段申觸候

三月廿五日

一今朝五時分原御立ニテ柏原御小休亭主浮島理右衛門江青銅四拾疋被下候

一吉原ニテ御晝休亭主長谷川八郎右衛門江金子百疋被下候

一富士川江御行掛ノ處又々川留相成候得共御引返ノ儀モ如何數候付不得止事御雇渡ニ相成拾六艘御借入ニテ代金八兩貳分貳朱餘差出候

一金五十疋

當番年寄

一同五十疋

一銀壹兩
高橋隆左衛門
御馬船水主惣川役人
本陣手傳

右三行富士川渡方致世話禮分ニ差出候

一岩淵ニテ御小休亭主常盤屋彌兵衛事川渡方江茂致世話候付金百疋並御宿料金五十疋被下候

一蒲原江ハツ過御着宿亭主平岡休兵衛江金貳百疋被下候平兵衛宿和泉屋佐兵衛ニテ候

三月廿六日 曇

一今四時蒲原御立九時由井宿江御着被爲 在候處興津川支付今晚當宿江御泊ニ相成候亭主溫飽屋四郎兵衛ヨリ御銚子御取肴色々御側廻迄モ差出候由ニ付右ノ御返トシテ金三百疋御宿料金貳百疋被下候平兵衛宿紀伊國屋四郎兵衛ニテ候

一金百疋

溫飽屋 四郎兵衛

一右川支付翌廿七日九時迄當宿御泊ニ相成候付御宿料重トシテ被下候

三月廿七日

一興津川今巳上刻川明ノ段相知候付九時由井宿御立

一由井川満水御渡方俄ニ橋掛等有之金子貳兩差出候

一倉澤ニテ御小休富士山此節モ時景ニ付御上下共稀成景色御眺望被爲在候亭主江青銅四拾疋被下候

一薩埵峠御越海邊ノ風景宜候

一興津川御渡ニ付御輿ノ儀ハ請臺ニテ請上無御滞御渡川川札代金六兩餘差出候

一興津ニテ御晝休亭主手塚十郎右衛門ヨリ進上物付金五十足並御宿料金百足被候下候

一庵原川ノ橋落付小川ニハ候得共満水ニ付御輿ハ請臺ニ請上川越ノ者共荷ヒ上御渡川右ノ賃金百足被下候

一江尻ニテ御小休おきな屋與三右衛門江金子五十足被下候

一小吉田ニテ御小休亭主因幡屋萬右衛門ヨリ鮮進上付金五十足並御宿料青銅四十足被下候

一日入時分府中江御着宿亭主小倉平左衛門江金子貳百足被下候平兵衛宿藤屋三右衛門ニテ候

一金百五十足 町奉行與同心

右當驛ニテ荷物貫目改有之出役ニ付右通被下候
但御改方ニ付テハ御物足輕差越附添居候而旁都合致候

三月廿八日 半天

一今朝六時府中御立ニテ則安部川御渡御輿ハ高欄臺ニ請上其外駕籠ハ銘々請臺ニ乗セ付川越人共荷ヒ上無御滯候尤本田郷兵衛宇都宮勘左衛門入枝甚左衛門ニハ纏絆壹脇差壹本ニテ高欄臺ニ取付歩行渡リ御供申上候

一右川札都合八百五拾壹枚代金九兩貳朱餘差出候札壹枚付六拾四文宛

一金百足 駿府町奉行
三好大膳組同心 吉田三之助
岩崎 清次

安部川方人足取賄見届トシテ出役

一同百足 安部川問屋
嘉右衛門 周 吉

肝 糞

重右衛門

仙 藏

丈 七

傳 兵 衛

下働之者

一金百足 安部川御出入 龜山五郎左衛門
同所御用聞 天野次郎右衛門

一青銅四十足 右五行安部川渡方付出張居右ノ通被下候

一丸子ニテ御小休亭主桔梗屋佐右衛門江青銅四十足被下候

一字都ノ山ニテ御小休亭主忠左衛門江同斷被下候

一岡部ニテ御晝休亭主江戶屋次郎右衛門江金百足被下候

一藤枝ニテ御小休亭主富士見屋文左衛門江青銅四十足被下候

一瀬戸川ト言小川満水付御輿ハ請臺ニテ請上川越人共荷ヒ上御渡川被遊候間右ノ賃金三歩貳朱餘差出候

一三軒屋ノ茶屋ニテ御小休亭主岩崎屋太郎右衛門江青銅四十足被下候

一嶋田ノ坊鼻ニテ御小休海老原五郎七江青銅四十足被下候

一大井川ノ儀此六七ヶ日跡ヨリ川留ニテ嶋田驛 有馬様御泊付此御方様御泊宿及差支候乍去置塩藤四郎別荘有之候而御泊宿ニ相究今七時右別

莊江御宿着尤手狭ノ故御側廻ノ内ヨリ福泉寺ト言淨土寺江別宿ニテ候

平兵衛宿角屋萬三郎當驛ノ坊鼻ニテ候

一御重ノ内二重 一御酒一瓶 亭主置塩藤四郎

右ノ通進上致候

一金貳百足 御宿禮

一全 百足 進上物返禮

一全五十足 大井川渡場世話方

右亭主藤四郎江被下候

一今暮時分川明ニ相成京極様毛利様杯ニハ金谷驛ヨリ大井川御渡夜入大混雜ノ由今晚又々大雨ニテ候

三月廿九日 半天

一昨夜ノ大雨ニテ大井川猶又川留ニ付今日當驛御滞在

四月朔日 半天

一今日午刻川明ノ段申觸候付嶋田驛御立大井川御渡最前ノ通御輿ハ高欄臺ニ請上川越人共荷ヒ渡リ安山武左衛門松山利左衛門法元仲藏中摩平助ニハ高欄臺ニ取付歩行渡リ御供支度等最前ノ通川渡方川札代金拾貳

兩壹步餘差出候札壹枚九拾四文ツ

但諸人大勢渡方付川端所々江川印相立陣取扣居軍場ノ様ニ相見得候
此御方ニモ川印向岸ニ貳本此方ニ貳本都合四本相立

一川用聞兩人江金五十疋肝煎三人江青銅四拾疋本陣手傳下働五人江金五十疋川庄屋川役人江金百疋被下候

一金谷ニテ御小休亭主櫻屋吉左衛門江青銅四十疋被下候

一日坂ニテ御小休芦川惣重ヨリ蕨餅進上付御返青銅貳拾疋御宿料同四拾疋被下候

一掛川ニテ御小休亭主常盤屋藤吉江同斷被下候

一原川ニテ御小休兼田屋林藏江金五拾疋被下候

一袋井ノ内ニテ御小休立花屋又四郎江同斷被下候

一夜入過候而袋井江御着宿亭主大田八藏ヨリ御着進上付金五十疋御宿料金貳百疋被下候平兵衛宿尾張屋小七ニテ候

四月二日 半天

一今朝日出時分袋井御立見附ニテ御小休亭主大塚屋源八江青銅四十疋被下候

一天龍川御船渡御都合能被爲濟般賃金壹兩壹步餘差出候

一濱松ノ内天神町角屋治平衛所御休尤阿波様御通行付暫此所江御扣ニ相成亭主江金五拾疋被下候

一濱松江七時御着宿尤舞坂へハ中川様御止宿付差支ノ由候間當宿江日高

ク御止宿ニ相成亭主伊藤平左衛門酒肴進上致シ且御側廻迄モ種々差出候付金子五十疋御宿料金貳百疋被下候平兵衛宿枳屋次郎七ニテ候

一同所江荒井ノ田代才兵衛弟中村文吉參り御番所御通向ハ先般ノ通御都合相調可申請合ノ段申出候付最前ノ通出役方江差向候目録都而取仕立候而右文吉江相頼渡置候

四月三日 半天

一今朝六時過濱松御立篠原御小休亭主鈴木喜兵衛江青銅四十疋被下候

一舞坂ニテ御小休亭主源馬德左衛門ヨリ進上物付金五十疋御宿料青銅四十疋被下候

一荒井御船渡付御召船ハ最前ノ通松平伊豆守様ヨリ御馳走振ニ被差出候

都合能御渡船被遊候

但御馳走船方出役久野砂右衛門高部篠八庄屋六郎右衛門問屋武兵衛惣内問屋手傳下働ノ者共出張

一同斷船渡付借入船賃金壹兩貳步餘差出候

一荒井御番所出役等最前ノ通ニテ候尤御乘輿ニテ御通行向無御滯被爲濟田代才兵衛所江御晝休

一金貳百疋宛 御關所番頭兩人

一同百疋宛 給人三人

五味 左織
吉田 治兵衛
加藤 式太郎
高木 勢之進
鈴木 助

一同百疋 徒目附貳人

一同貳百疋 先手同心八人

一同百疋 先拂四人

一同百疋 町奉行 安田三太夫

一同五十疋 町奉行附 同心

一同三百疋 御馳走船ノ御禮

一同百疋 御船之 船頭

一同貳百疋 右同 水主相中

右拾行前日濱松ニテ取仕立中村文吉江渡置今日御通行前以彼方向々江引渡相成候

一金百疋 御宿料

一同百疋 御銚子御取肴進上ノ禮

一同五十疋 御用達衆其外同斷

一同百疋 旁世話料 亭主 田代清兵衛

一同五十疋 蛤進上ノ禮 才兵衛實弟 中村文吉

一同百疋 鱸進上ノ禮 疋田八郎兵衛

一同百疋 同 與兵衛

一同百疋 蛤進上ノ禮 疋田彌五助

高照院様御登ノ節御宿差上候者ノ由

一白須賀ニテ御小休亭主三浦宗次郎江金子五十疋被下候

一 二川ニテ御小休亭主柏原次郎八江青銅四十疋被下候
一 日入前吉田江御着陣亭主中西與右衛門江金子貳百疋被下候平兵衛宿今
出屋三四郎ト申者ニテ候

四月四日 曇

一 今朝六半時吉田御立稻村ニテ御小休亭主加藤彦助江青銅四十疋被下候
一 赤坂ニテ御晝休亭主清水市三郎江金子百疋被下候
一 寶藏寺門前茶屋ニテ御小休亭主江青銅四十疋被下候
一 藤川ニテ御小休亭主角屋左七江同斷被下候
一 今七時岡崎御着宿亭主中根甚太郎江金貳百疋被下候平兵衛宿鳴屋六左
衛門ニテ候

四月五日 雨天

一 今朝六半時岡崎御立大濱江御小休亭主高井善兵衛ヨリ進上物付金五十
疋且御宿料青銅四十疋被下候
一 池鯉鮒ニテ御晝休亭主永田清兵衛江金子百疋被下候
一 前後村ニテ御小休亭主成田仲次江青銅四十疋被下候
一 桶狭間ノ古戰場ト言野岡左手ニ相見エ候且信長鎧掛ノ松右手ニ有
一 有松村紋屋ニテ御小休亭主竹田九郎江青銅四十疋被下候
一 笠寺ノ前菜屋ニテ御小休亭主山本屋勘助江青銅四十疋被下候
一 今七時過宮江御着宿亭主山城屋吉左衛門江御宿料金貳百疋且進上物並
御用達衆其外宿々江銚子取肴等差出候付金貳百疋被下候平兵衛宿時雨
屋喜助ニテ候
一 明六日桑名渡船借入其外諸手當向等亭主差引ニテ候
一 船方役所出役相中江金貳百疋被下候

四月六日 半天

一 今朝五時宮御立御乘船七里ノ渡ニテ晝時分桑名江御着船駿河屋源七所
江御止宿亭主ヨリ進上物付青銅四十疋御宿料貳百疋被下候平兵衛宿伊
勢屋小兵衛ニテ候
一 宮ヨリ御召船壹艘御借入代金貳步差出候
一 惣御供船八艘御借入代金五兩壹步餘
一 惣船相中江褒美トシテ金壹步貳朱被遣候

一 桑名津畑ヨリ御旅宿迄荷物運賃錢貳百文差出候

追 觸

薩摩鳴津兵庫通行付宿割人馬賦書差出置候處諸川支等有之及滯在今六
日桑名止宿明七日龜山泊其外諸所休泊先書ニ申達置候通御心得人馬繼
立候様御取計可給候以上

四月六日 薩州 新納平兵衛

桑名ヨリ大津迄

問屋役人中

四月七日 雨天

一 今朝六半時桑名御立おふけ村御小休亭主新屋淺右衛門江青銅四十疋被
下候
一 富田ニテ御小休亭主酒匂五郎兵衛江同斷被下候
一 四日市ニテ御晝休亭主清水太兵衛江金子百疋被下候
一 追分ニテ御小休亭主かき屋長三郎江青銅四十疋被下候
一 石藥師ニテ御小休亭主福鳴屋八十右衛門江青銅四十疋被下候
一 今七半時龜山江御着宿當所御假屋ノ由ニテ番人樋口太郎兵衛江金貳百
疋被下候平兵衛宿椿屋彌治郎ニテ候

四月八日 半天

一 今朝六半時龜山御立關ニテ御小休亭主弓屋新助江青銅四十疋被下候
一 坂ノ下ニテ御晝休亭主小竹市左衛門江金子百疋被下候御登ノ節被遊御宿
候亭主松尾嘉兵衛ヨリ火繩十曲致進上候付青銅四十疋被下候
一 猪之鼻村ニテ御小休亭主柏屋傳右衛門江青銅四十疋被下候
一 松之尾ニテ御小休亭主水口儀右衛門江青銅四十疋被下候
一 大野ニテ御小休亭主小畑屋六兵衛江同斷被下候
一 今七時水口江御着宿かな屋庄三郎江金貳百疋被下候平兵衛宿和泉屋清
兵衛ニテ候

一金五十疋 當驛御本陣 若葉屋

右此節ハ差支付御宿不差上候得共進上物致候間右通被下候

四月九日 半天

一今朝六時過水口御立田川村ニテ御小休亭主植木屋庄左衛門江青銅四十
疋被下候

一石部ニテ御晝休亭主三大寺孝右衛門江金百疋被下候

一梅木ニテ御小休亭主織田彦十郎江青銅四十疋被下候

一今七時前草津江御着宿亭主田中九藏江金貳百疋被下候平兵衛宿油屋佐
兵衛ニテ候

四月十日 曇

一今朝六時半時草津御立勢田ニテ御小休亭主鍵屋庄兵衛江青銅四十疋被下
候

一此所ヨリ石山寺藥師江御參詣鍵屋ノ梓梅太郎十三歳ノ前髪ニテ候方御
案内申上候付金五十疋被下候御初穂料金五十疋被差上候

一大津ニテ御晝休大塚屋嘉右衛門江金百疋被下候

一追分ニテ御小休荒物屋喜右衛門江青銅四十疋被下候

一此所ヨリ丸田彌七左衛門殿ニハ京都ノ様被差越明日京都御見物ノ諸都
合御屋敷詰見聞役篠原伊右衛門殿江引合被申答候付被差越候而明日ハ
稻荷邊江待受ノ賦ニ候

一觀修寺村御小休亭主大黒屋伊兵衛江青銅四十疋被下候

一藤之森ニテ文珠四郎別莊江御小休同斷被下候

一今七時伏見ノ兼松市之丞所江被遊御着宿候平兵衛宿谷口清兵衛ニテ候

一金百疋 政田屋代 貞助

一同百疋 棒頭

一同三步 陸尺相中

一同三步 駕籠昇九人相中

右四行伏見御着祝儀振トシテ被下候

一伏見ヨリ大坂マテ川下リ御船其外船賦都合七艘御手當ニ相成候

四月十一日 雨天

一今日伏見ヨリ御假屋守友野七郎右衛門殿御同伴ニテ御出ノ處稻荷島居
脇茶屋迄丸田氏並篠原伊右衛門殿御出迎是ヨリ御同伴京都江御越御所
並東山祇園邊清水寺諸所御見物噲ノ堂ニテ御銚子共被召上夜入四時御
歸右ノ茶屋江金五百疋被下候外ニ御前通御酒飯並御供廻迄輕キ酒飯被

成下候付仕廻書差出候分ハ別段ニ候

但御中途ノ儀ハ御臺輪ニテ御道具等モ無之御供人數モ少人數ニ而候事

一金百疋 京都御留守居 田尻次郎兵衛様

一同貳百疋 伏見御假屋守 友野七郎右衛門殿

右兩人共御扇子箱進上且友野氏ニハ旁御世話被申付候付右通被遣候

一金三百疋 京都詰見聞役 篠原伊右衛門殿

右京都御越付而ハ旁御世話被申付候付被遣候尤諸所御見物所御同伴

ニテ候 京都 大津屋

一金百疋 右同前ニテ御案内旁ニ付被下候尤篠原氏被列越候

一御扇子 一箱 般若院

右京都ヨリ伏見江爲御機嫌被致進上候

本文御下國ノ上爲御禮金子三百疋御差送ニ相成候

一御扇子 一箱宛 惠美須屋 吉兵衛

和田休右衛門 濱村孫太郎

右ノ通向々ヨリ進上有之

一金貳百疋 御宿禮

一金三百疋 世話料 兼松市之丞

右御滞在旁致世話候付右通被下候

一錢五百文

右ノ内壹艘入屋形組入賃

一銀貳拾七匁

五拾石船貳艘ノ賃

但壹艘ニ付拾三匁五分ツ、

一銀拾壹匁

右貳艘ニ相掛壹日待賃

但壹艘ニ付五匁五分ツ、
兵庫殿用達

丸田彌七左衛門

左近允六右衛門

右者兵庫殿江戸ヨリ被爲下候付伏見ヨリ大坂迄御乗船且荷物積用
トシテ借渡候間船賃待賃銀等拂方被仰渡候以上

但差掛御着ノ事ニ而其元ヨリ迎船被差登候間合無之伏見過書屋
形張ノ義茂差支借入不相調候付本行之通相渡候

伏見御假屋守

友野七郎左衛門

四月十二日

大坂

手形所

一銀貳拾七匁

五拾石船貳艘ノ賃

但壹艘ニ付拾三匁五分ツ、

一同拾五匁七分五厘

六拾石船壹艘ノ賃

一同拾六匁五分

右三艘江相掛壹日待賃

但壹艘ニ付五匁五分ツ、

兵庫殿役人

新納平兵衛

右者兵庫殿江戸ヨリ被爲下候付伏見ヨリ大坂迄荷物船トシテ借渡

候間船賃銀並待賃料拂方被仰渡候以上

伏見御假屋守

友野七郎左衛門

四月十一日

大坂

手形所

右船數七艘代金壹兩ト錢四百文餘

一入屋形壹組

一澁紙苫八枚

右者兵庫殿川御下リ付御乗船用トシテ差下候間以便宜可被差返
候以上

伏見

御假屋守

四月十二日

大坂

手形所

四月十二日 時々小雨

一今日四時伏見御立御乗船川御下リ御船中御都合能大坂江日入前御着船
濱御屋敷ノ内江御旅宿御手當ニ相成居即右江被爲 入候

一御吸物

一御取肴

一御樽一

菱刈七左衛門様

一御肴一折

一御樽一 永井清左衛門殿

一御扇子一箱

惠美須屋 吉兵衛

甚 七

右ノ通向々ヨリ進上物有之

一御用達衆宿並御役人宿御馬方宿都合三軒御手當有之尤賄方等ノ儀先般
ノ通虎屋讀岐屋相模屋ヨリ請合ニテ仕調差出候

四月十三日 曇天

一今日御滞在

一 大坂ヨリ小倉迄御船賦旁諸御手當向有之候折柄小倉船參合候付船六艘
御借入賃銀拾六兩貳步御馬船壹艘賃金四兩三步ニテ候

但小倉參合ノ船々江入札爲致候而船見分致候上相究候

一 小差七ツ 送狀壹通添

右御船中目印用トシテ手形所ヨリ相請取於御國許返上ノ賦ニ候

覺

一 乗物壹挺

一 乗替駕籠壹挺

一 挾箱貳ツ

一 鎧箱壹ツ

一 刀箱壹ツ

一 蓑箱壹ツ

一用簞筥壹ツ 一對道具貳本
 一手鍔壹本 一長刀壹本
 一長柄壹本 一弓臺壹肩
 一茶辨當壹肩 一率馬貳疋
 一沓籠壹ツ 一兩掛拾壹荷
 一長持四掉 一引戸駕籠三挺
 一乘駕籠八挺 一鎧箱壹荷
 一合羽籠七荷 一竹馬五荷
 一挑灯籠壹荷 一駄荷拾三駄
 一惣人數六拾三人

右者兵庫殿此節東海道被罷通右ノ通御座候間此段申上候以上
 留守居 宮内次郎左衛門

四月十三日

右手形所江差出候
 一御菓子七種一箱 和田休左衛門
 御滯留御伺 津田休右衛門
 津田 休兵衛
 一御扇子 一箱 津田休右衛門
 御着座恐悦 津田 休兵衛
 右大坂ニテ御銀主ノ由右進上ノ段御近習役中出候
 一琉球細一端宛 右三人
 右御返禮トシテ本行ノ通被成下候

手形 模合方
 一銀三貫五百四拾八匁貳分
 一眞米三石八斗五升先
 内七拾目
 米三斗五升 滯坂壹日分

四百五拾壹匁五分
 米三石五斗 小倉船中拾日分
 貳貫九百四拾八匁四分
 下り九州路静料
 八拾壹匁 乘馬飼料貳疋分
 壹疋ニ付四拾目五分
 外ニ貳匁七分
 右通陸尺賃被成下候付上壹人分ワラ地銀トシテ引
 上下七拾人

鳴津兵庫殿

役人

一銀貳百四拾五匁壹分四厘
 一眞米貳斗貳升先

内四匁

米貳升 滯船壹日分
 貳拾五匁八分
 米貳升 小倉船中拾日分
 百六拾八匁四分八厘
 下り静料九州路
 四拾六匁八分六厘

右道中ワラ地沼除輕尻壹疋賃

上下四人

用達 丸田彌七左衛門殿

右者今般

公邊勤向相濟御暇被下九州路被差立候旨御證文ヲ以被仰渡候段
 江戸物奉行送狀相達候間右ノ通可被渡候也
 亥四月十三日 菱刈七左衛門

藏役人

手形 帖佐與方
 一銀九拾九匁壹分四厘

一 眞米壹斗壹升
一 壹人 銀四拾九匁五分七厘

米五升五合

内壹匁

米五合 滯坂壹日分

六匁四分五厘 小倉船中拾日分

四拾貳匁壹分貳厘下り九州路靜料

御兵具方足輕

古川定右衛門

福嶋 軍太郎

右者嶋津兵庫殿江被召付候旨御證文ヲ以被仰渡候段江戸物奉行

送狀相達候間右通可被渡候也

亥四月十三日 菱刈七左衛門

藏役人

手形 賦米方

銀九拾九匁

繼駕籠六人賃

壹人付拾六匁五分ツ、

嶋津兵庫殿

役人

右者今般

公邊御勤向相濟江戸被差立候旨被仰渡於江戸東海道分相渡候旨

物奉行送狀相達候間可被渡候也

四月十三日 菱刈七左衛門

藏役人

手形 帖佐與方

一 銀八拾貳匁六厘

一 眞米壹斗壹升

壹人 銀五分

米五合 滯坂一日分

三匁四分五厘

米五升 小倉船中拾日分

三拾七匁八厘

下り九州路御錢

入夫靜料

鹿兒嶋 庄左衛門

川邊 善四郎

右者嶋津兵庫殿江被召付候旨御證文ヲ以被仰渡候段江戸物奉行

送狀相達候間右通可被渡候也

亥四月十三日 菱刈七左衛門

藏役人

手形 模合方

貳朱金九拾五切

金ノ拾壹兩三步貳朱

内五兩貳分

拾五反帆壹艘

三兩壹分貳朱

拾壹反帆壹艘

三

九反帆壹艘

嶋津兵庫殿

役人

右者此節

公邊勤方相濟被爲下候付小倉船御宿入相成候間賃銀右通可被渡

候也

四月十四日 菱刈七左衛門

藏役人

口上覺

兵庫殿事先月二十日江戸被差立同二十六日由井迄被差越候處興津川満

水ニテ川留ニ相成無據由井宿江一日被致滞在候付御賄料御法ノ通被仰

渡奉存候尤本陣ヨリ證文取置候得共何方江召置候哉見當不申候間此

旨奉願候以上

四月十三日

用達

左近允六右衛門

丸田彌七左衛門

手形所

右諸所御滯付本陣ヨリノ證文由井驛ノ分致紛失右ノ通被差出候

手形

一銀三百七拾八匁

亥三月二十四日原宿同二十六日由井宿二十九日嶋田宿合三日無
働旅込賃

壹日壹人壹匁八分

上下七拾人

島津兵庫殿

役人

一銀貳拾壹匁六分

但書同斷

上下四人

用達

丸田彌七左衛門

右者此節

公邊勤向相濟御暇被下江戸被差立候處東海道ノ内富士川與津川
大井川滿水付右ノ通致滯在候段諸所御本亭證文見届候間可被渡
也

亥四月十四日

菱刈七左衛門

藏役人

一上下七拾人並御用達衆御賄料送狀壹通

但江戸ヨリ伏見迄

一御口ノ者兩人 御賄料送狀壹通

但同斷

一通陸尺八人 右同壹通

但同斷

右三行江戸物奉行衆仕出ニテ於大坂手形書裏書調ニテ被相渡候
一人足庄左衛門善四郎右同壹通

右書同斷

一他領境ヨリ鹿兒嶋迄宿次賃錢拂壹通

右壹通大坂手形所仕出

右四通相渡候付致格護御國許ニテ向々江差出候間送狀等ハ御光着後ニ
帳留ニ有

一今夕方ヨリ菱刈七左衛門様永井清左衛門殿被召寄御用達衆兩人御亭主
前ニテ御吸物一御硯蓋壹面并大小五六ツ御鉢物一後ニテ御茶漬差上緩
々御咄ニテ四時御暇被申上候

四月十四日 曇

一今日四時ヨリ住吉宮御參詣付御忍ノ御姿ニ而御乘馬尤永井清左衛門殿
御同伴ニテ被遊御出候

一伊丹屋權右衛門所江御休御晝飯等召上

一住吉ノ前神主田中和佐太夫所江御立寄御支度替直ニ右神主御案内ニテ
住吉宮御參詣御進納左ノ通

一御初穂料金百疋 御本社

一同 百疋 御誕生石

一同 百疋 御神樂料

一同 百疋 神主江

右御參詣被爲濟神主所江又御立寄御支度被召替御立

一難波屋休太郎所江御立寄庭松御見物松ノ高サ壹大位八方江繁茂貳畦位
右亭主休太郎江金五十疋被下候

一夫ヨリ住吉宮御前崎江御出芦濱御見物

一同所常夜燈高サ貳拾間位モ有之是江御登リ諸方被遊御遠見右ノ番人江
鳥目四十八銅被下候

一先刻被遊御立寄候伊丹屋權右衛門所江御休ニテ御銚子共被召上亭主江
金三百疋且進上物付金五十疋被下候

一御歸掛天王寺江御參詣

一天王寺ノ内龜井ノ水御見物

一同所ノ高樓江綴ノ錦織方有之候ヲ御見物青銅十疋被下候
一夫ヨリ生玉宮御參詣同所茶屋江青銅二十疋且右茶屋手狹付前側茶屋江

茂腰掛候付鳥目三拾貳銅被下候

一夫ヨリ御城ノ脇御通行御見物尤外堀ノ廣百間有之由

右住吉御參詣並其外諸所御參詣御見物被爲濟夜入時分被遊御歸候

一金子百疋 上仲仕 利右衛門

右今日住吉御參詣付御先案内相勤候間本行ノ通被下候

一金貳百疋 山崎屋 市左衛門

右住吉御參詣方付旁御世話申上候間右ノ通被下候

御扇子 一箱 兵庫驛御本陣小豆屋

島山助右衛門

右伺御機嫌付大坂迄同人差越致進上候

四月十五日 半天

御肴代三百疋

一起後縮壹端 菱刈七左衛門様

一金子貳百疋

袴地壹端 永井清左衛門殿

右ハ御滞坂中彼是御世話被成候付本行ノ通被遣候

一金三百疋 中仕 平兵衛

右諸御用聞ニテ晝夜相詰候ニ付被成下候

一金子百五十疋 下仕 御門番人

一金五十疋

右進上物ニ付右ノ通被下候

一大廻リ船江荷物積下方相頼品數ノ覺

一吳座包 三 看判類

一白木箱 三 御側御用物

一蕨包 貳 右同

一紙包 貳 新納平兵衛殿

一蕨包 貳 壹岐孫左衛門

一蕨包 貳 宇都宮勘左衛門

右ノ通木札付ニテ致附狀永井清左衛門殿江頼入候

先觸

一繼人足

一繼馬

右者薩州鳴津兵庫國許江差越候付別紙宿割ノ通休泊ニテ致通行候間驛

々人馬無滞御繼立給度此旨御案内申達候

四月十五日 薩州 新納平兵衛

驛々 問屋役人中

四月十六日

一大坂立 一尼ヶ崎休

同日 同十七日

一西ノ宮泊 一兵庫泊

四月十六日 小雨

一今朝五時御供揃御行列江戸御出立ノ節ノ通被相立大坂御屋敷御立

一三番茶屋ニテ御小休亭主紙屋休兵衛江金子貳百疋被下候

一御行列ノ儀同前迄ニテ御引取御馬ハ大坂江率戻リ船江乗付ニ相成候

一同所迄菱刈氏永井氏御出ニテ御別盃有之

一十三ト言川船ニテ御渡川賃金壹歩差出候

一金百疋 上中仕 利右衛門

右同所迄御先案内相勤候付本行ノ通被下候

一神崎川御船渡船賃金壹歩差出候

一尼ヶ崎ニテ御小休亭主戸松屋與平江青銅四十疋被下候

一七時西ノ宮江御着宿亭主小幡源兵衛江金子貳百疋被下候平兵衛宿嗟峨

屋利兵衛ニテ候

四月十七日 曇

一今朝五時西ノ宮御立住吉村ニテ御小休亭主吉田善左衛門江青銅四十疋

被下候

一寺内ニテ御小休亭主大屋伊兵衛江青銅四十疋被下候

一生田川御通行生田宮ノ前楠正成石塔ノ前夫ヨリ湊川御通行右古跡被遊

御見物候

一七時前兵庫ノ小豆屋助右衛門所江御着宿

一平兵衛宿繪屋儀兵衛ニテ候

一右助右衛門所江御國ヨリ御建立ノ稻荷社江御初穂料白銀貳兩被遊御進

納候

一亭主助右衛門ヨリ御吸物御銚子御取肴御膳迄モ差上候
一同人ヨリ御用達衆並御役人其外御側廻江茂銚子取肴向々江差出候

四月十八日 半天

一御借入船大坂ヨリ到着無之御滞在

一今晝時分ヨリ須磨ノ浦江御越須磨寺寶物敦盛青葉ノ笛並甲冑類被遊御覽候間青銅四十疋被遣候

一須磨寺ノ手前長田大明神江御參詣御初穂料青銅四十疋御進納

一右被爲濟船御借入ニ相成須磨ノ浦ヨリ御乘船暮時分被遊御歸候船賃錢ハ貳貫文差出候
兵庫ヨリ須磨ノ浦迄道法一里半程

四月十九日 晴天

一御借入船六艘ノ内三艘ハ着致候得共江戸ヨリノ跡荷物積船三艘到着無之今日モ空敷御滞在

一藤緑盆貳枚

一捻蓋煙草十八

一金五百疋

御宿礼

一同千疋

進上旁ニ付御返禮

一同貳百疋

御用達衆ヨリ

一同貳百疋

御役人其外ヨリ

一同三百疋

御側廻相中ヨリ

右七行亭主助右衛門ヨリ毎日程銚子取肴差出事候付其儀無之様折角斷申入候得共免角面働筋相掛候間右通被下候

四月廿日 半天

一大坂ヨリノ跡殘船三艘今日到着ニテ候

一御乘船前御銚子御挟肴ニテ御盃助右衛門江被下候

一今七時過兵庫津ヨリ御乘船被遊候得共西風強御出帆難成同所和田御崎江終夜御滯船ニテ候

四月廿一日 曇

一今朝六時和田御崎出帆東風ニテ順風能須磨ノ内灘付播摩ノ内舞子ノ濱

ノ前迄走り帆ニテ無程南風ニ相成六艘共一緒ニ明石浦江入津御滯船
一暫時ノ間風和二相成明石津御出帆ニテ候處西風強四艘ノ船大島ト言所江汐掛外ノ貳艘モ追々漕付七時家嶋ト言所ニ一緒ニ入津雨降りニ而終夜御滯船此所迄海上凡十八里

四月廿二日 曇

一今朝雨止五時半時家嶋出帆終日順風ニテ暮時しもついと言所迄凡二十里程走り夫ヨリ夜分モ追風ニテ白石ノ瀬戸走

四月廿三日 半天

一今朝追手風ニテゆけ通り扱はなこ走り過おんど瀬戸又うしと言所通り夜入五時分四時迄御船其外船々追々宮嶋御着船被爲在候

四月廿四日 半天

一今朝早天嚴嶋宮江御參詣御初穂料並御守札料青銅三拾疋御進納ニ相成候此所人家江鹿多ク能人馴且又猿モ同斷ニテ候

一此所江小倉ノ船問屋有之風呂相立候付惣船相中ヨリ金百疋被下候尤且那樣ニハ御立寄不被遊候

一今四時分宮嶋御出帆纔三里程漕行西風吹向ヒ漕行難ク汐掛暮時分ヨリ風ニ相成漕出候得共又々向風ニテ大畑ト言所江汐掛

四月廿五日 半天

一今朝六時大畑漕出晝時分ヨリ東風吹起リ追風ニテ周防灘夜入時分迄凡三拾五里程走り雨降出田ノ浦ト言所江待合汐掛致シ船々追々漕付候得共御召船並四番船ノ儀東風強候故御見合ニ相成諸所汐掛ニテ御滯船

四月廿六日 雨

一今朝迄御召船ハ不相見得共外船ハ田ノ浦出帆ニテ四時過小倉江到着取前ノ通村上銀右衛門所江着宿

四月廿七日 雨天

一御船ノ儀雨降故上ノ關西浦ト言所江御滯船

四月廿八日 雨天

一今日モ天氣惡敷御滯船

四月廿九日 半天

一今朝上ノ關御出帆七時過小倉江御着船被爲在候間明晦日當所御立ノ御

手當有之

一 麻絹御上下壹具

一 藤縁盆貳枚

一 銀貳枚

御宿禮

一金三百疋

進上物旁世話致候返禮

一同貳百疋

御役人其外ヨリ

一同百疋

御用達衆ヨリ 村上銀右衛門

一 銀壹兩

手傳江

右ノ通取仕立被成下候

一 明晦日小倉御立付御左右書並出水米ノ津迄足輕寄御陸尺八人其外御中

途迄御備道具類被差越候様今廿九日飛脚差立候御物足輕福島軍太郎御

手足輕篠崎傳七ニテ候

先觸

馬貳疋

右者兵庫殿今般江戸ヨリ被罷下候付加治水江用事有之爲飛脚被差越

候間人馬繼立可給候尤於大坂人馬手形申請差越管候處右飛脚中途ヨ

リノ用向故鹿兒着ノ上郡方江申出不都合不相成様可被計候間此段申

越候以上

兵庫殿旅用達

四月廿九日 丸田彌七左衛門

出水ヨリ伊集院迄

諸所 郡見廻中

先觸

一人足四拾五人

一 馬拾五疋 銘々口率有

一 宿七軒

内壹軒本宿 壹軒用達 壹軒役人

壹軒側廻 貳軒下宿 壹軒馬宿

右者兵庫殿江戸ヨリ被罷下候付付中途無滞候得者來月八日出水米ノ

津泊ニテ別紙宿割ノ通被致通行宿並人馬本行ノ通入用候間御手當給

度此段御案内申越候以上

四月廿九日

兵庫殿旅用達

丸田彌七左衛門

出水ヨリ伊集院迄

郷土年寄中

郡見廻中

五月八日

佐敷出立

同日

水俣休

米之津泊

野田休

九日

西方休

阿久根泊

十日

湊休

向田泊

十一日

横井休

伊集院泊

十二日

鹿兒鳴

先觸

繼人足四拾五人

一 繼馬拾五疋

右者薩州鳴津兵庫國許江差越候付別紙宿割ノ通休泊ニテ致通行候間

驛々人馬無滞御繼立給度此旨御案内申達候以上

薩州

四月廿九日

新納平兵衛

小倉ヨリ水俣迄

問屋役人中

四月晦日

小倉出立

木屋ノ瀬休

同日

赤間泊 青柳休

五月朔日

博多泊 宰府休

同二日

松崎泊 羽犬塚休

同三日

瀬高泊 南ノ關休

同四日

山鹿泊 植木休

同五日

川尻泊 小川休

同六日

日奈久泊 田ノ浦休

同七日

佐敷泊 水俣休

以上

一此節筑前宰府天満宮御參詣ノ賦候付博多廻リ可被遊御通行御不用ノ御道具ハ都テ本街道筋繼通シ足輕其外ノ内ニモ宰府行無之者ハ松崎迄差越待上ノ筈候間先觸ノ儀モ別段仕出方ニ相成候

四月晦日 曇天

一今朝五時分小倉御立大藏ニテ御小休亭主綿屋藤平江青銅四十疋被下候

一黒崎ニテ御小休亭主薩摩屋仁右衛門江同斷

一上ノ原涼ミ天神ノ前ニテ御小休茶屋ノ藤四郎江青銅貳拾疋被下候

一石坂ニテ御小休亭主銀杏屋貞吉江同斷

一木屋ノ瀬御晝休亭主内田半助ヨリ鯉尾進上付金五拾疋並御宿札金百疋被下候

一木屋ノ瀬御通り過無程北手ノ方江御入込宰府道筋御通行

一新北ニテ御小休松賀屋伊右衛門江青銅貳拾疋被下候

一永田村ニテ御小休亭主立野七六江同斷

一日入時分赤間御着宿亭主新屋庄右衛門江金貳百疋被下候平兵衛宿米屋

惣右衛門ニテ候

五月朔日 半天

一今朝六時過赤間御立畦町ニ御小休亭主八尋久右衛門江青銅四十疋被下候

一反ノ原御立場ニテ御小休茶屋江青銅貳拾疋被下候

一青柳ニテ御小休亭主城戸小兵衛江金百疋被下候

一御用達衆並平兵衛其外森字内所ニ而候

一美代ニテ御小休亭主茂七江青銅貳拾疋被下候

一ハも村庄屋與三所御小休青銅貳拾疋被下候

一青柳ヨリ同所マテ御中途御案内相勤候者江青銅貳拾疋被下候

一箱崎ニテ御小休亭主鶴田次郎助江青銅四十疋被下候

一箱崎八幡宮江御參詣御初穂料銀貳兩御進納被遊候

一七時博多江御着宿亭主高瀬屋與右衛門御吸物御銚子取肴格別入念候

御前並御次通且御用達衆宿御役人宿其外下宿迄太粧ニ取仕立銘々差出候内々御城下御役場ヨリ御差引爲有之哉ト察候依之御宿禮等モ相當ニ無之候テハ相成間敷トノ事ニテ左ノ通被遣候

一金子五百疋 御宿禮

一同千疋

進上物旁禮物

一煙草三拾包

御本陣

一金五百疋

一煙草貳拾包

御用達衆ヨリ 亭主江

一金五百疋

一煙草貳拾包

御役人宿 紅屋

一右者銘々宿亭主ヨリ銚子取肴差出候ニ付右ノ通被下候

一今晚宰府連歌屋ヨリ明日御通行御案内トシテ差越候

五月二日 大雨

(鐘カ)本ノママ

一今朝六時過博多御立雜掌ノ限ニテ御小休亭主大須屋幸市江青銅貳拾疋被下候

一 宰府連歌屋江晝前御着御銚子御取肴進上被召上直ニ天神江御參詣尤御用達衆御役人方ヘモ同斷銚子取肴差出候

但連歌屋當住ノ儀ハ當分上京留守ノ由ニテ二十教坊江御逢御挨拶是ヨリ御參詣被爲濟島居脇迄右十教坊御案内申上候事

一 梅ノ御守札 一 梅ケ枝餅

右連歌屋ヨリ進上

一 御初穂料金百疋

一金三百疋 進上物旁ニ付

一金貳百疋 御用達集並御役人ヨリ

一金貳百疋 御側廻ヨリ

右ノ通連歌屋十教坊江被遣候

一 石火ニテ御小休魚屋七左衛門江青銅貳拾疋被下候

一 乙隈ニテ御小休亭主吉田市太郎江同斷被下候

一 七半時松崎江御着宿亭主柳川屋兩吉ヨリ進上物付金五十疋並御宿札金貳百疋被下候

一 平兵衛宿油屋喜兵衛ニテ候

五月三日 曇

一 今朝四時過松崎御立古賀茶屋岩屋八兵衛所御小休青銅貳拾疋被下候

一 府中ニテ御小休亭主薩摩屋伊兵衛ヨリ温石二進上致候付金五十疋並御宿禮青銅四十疋煙草二拾包被下候

一 一條ニテ御小休亭主北屋文吉江青銅四十疋被下候

一 羽犬塚ニテ御晝休久留米御假屋ニテ番人大久保矢三郎江金百疋被下候

一 七半時瀬高江御着宿柳川領御假屋ニテ番人中林太兵衛江金貳百疋且進上物付煙草貳拾包被下候

一 平兵衛宿靴屋伊兵衛ニテ候

五月四日 曇

一 今朝五時前瀬高御立原ノ町ニテ御小休亭主松尾伊兵衛江青銅四十疋被下候

一 南ノ關ニテ御晝休亭主三熊市之進江金百疋被下候

一 肥猪村ニテ高行寺江御小休青銅貳拾疋被下候

一 七半時山鹿江御着宿小倉屋宗右衛門江金子貳百疋被下候

五月五日 半天

一 今朝五時山鹿御立廣野町ノ茶屋前御立場青銅十疋被下候

一 味取町ニテ御小休亭主前田三右衛門江青銅四十疋被下候

一 植木御假屋御小休番人川野八兵衛江金百疋被下候

一 御馬下ト言所御小休亭主赤木直三郎江青銅貳拾疋被下候

一 熊本町御小休亭主松原榮次郎江金五十疋被下候

一 同所ニテ貳ヶ所江御小休ノ手當有之候得共壹ヶ所ニテ相濟候付外壹ヶ所面働筋相掛候間青銅四十疋被下候

一 七ツ半時川尻江御着宿亭主山城屋甚次郎ヨリ節句ノ物進上候付金百疋御宿料金貳百疋被下候

一 平兵衛宿俵屋休藏ニテ候

一 御國元ニテモ善次郎様御初幟付被遊御祝御用達衆兩人其外役々被召出御銚子被下候御用達衆ヨリうなき樺燒進上被申候左候而御宿亭主ヨリ節句ノ物進上致し且御祝付面働ニ相成候付金百疋被下候

五月六日 曇

一 今朝川尻御立

一 みとり川御川渡ニ付船御借入代錢八百文差出張

一 宇土ノ町ニテ御小休亭主有村佐兵衛次江青銅四十疋被下候

一 豐福ニテ御小休三角屋清藏江青銅貳拾疋被下候

一 小川ニテ御晝休亭主池田清藏江金百疋被下候

一 種子山ニテ御小休亭主小田善之丞江青銅四十疋被下候

一 上豐村ニテ御小休高田會所江銀拾六匁被下候

一 暮時分日奈久江御着宿亭主南四郎左衛門銚子取肴御膳進上付捻蓋煙草八箱金貳百疋並御宿禮金貳百疋被下候

一 平兵衛宿松野俊右衛門ニテ候

五月七日

一 今朝五時日奈久御立二見村ニテ御小休亭主次郎江銀壹兩被下候

一 田ノ浦ニテ御晝休藤崎屋彌次郎江金子百疋被下候

一 赤松太郎坂御通り佐敷太郎坂ノ峠江御野立

一今七時佐敷江御着宿亭主森田貞吉江金貳百疋被下候
一平兵衛宿油屋茂兵衛ニテ候

五月八日 雨

一今朝五ツ時佐敷御立湯ノ浦ニテ御小休亭主宮嶋善之助江青銅四十疋被下候

一津奈木ニテ御小休亭主小八江青銅貳拾疋被下候

一同所御假屋御小休金百疋被下候

一水俣ニテ御晝休薩摩屋嘉兵衛江金百疋被下候

一夜入過米ノ津御着宿亭主松崎小太郎江金百疋被下候平兵衛宿友田甚兵衛ニテ候

一出水役々伺御機嫌進上物付金百疋被下候

五月九日 半天

一小倉ヨリ通シ陸尺今日當所ヨリ差返候

野間原御番所江差出候

覺

小倉ノ

忠兵衛

兼藏

茂次郎

丹次

外ニ貳人

右者兵庫殿被罷下候付陸尺雇入差越爰元ヨリ差返候間御差通可給候以上

五月九日

兵庫殿用達

丸田彌七左衛門

野間原

御番所

一今朝五時米津御立同所町御小休亭主天滿喜兵衛江青銅四十疋被下候

一同所地頭代三原源五左衛門殿進上物伺御機嫌付金貳百疋被遣候

一出水麓御假屋馬場御踏寄御見物

一高尾野御假屋ニテ御小休所役ヨリ進上物付金百疋被下候

一野田御假屋御晝休所役ヨリ御銚子取肴御膳進上迄茂申上度申出候付再

三御斷茂被爲及候得共是非トノ事ニ付被遊御請候且御供廻迄モ同斷差出候付是以同段相斷候得共是非トノ事ニ付旅込拂致度旨押々申入候處

一膳三拾貳文ニテ宜旨承其通相拂候依之金三百疋並御假屋番江青銅四十疋被下候

一今八半時阿久根江御着亭主川南源兵衛ヨリ御銚子取肴御膳進上致候

一金三百疋 進上物御返シ

一同 百疋 御宿禮

右川南源兵衛江被下候

一同百疋 阿久根郷士 年寄與頭 御用聞 兩人

銀壹兩 右貳行進上物ニ付被下候

一平兵衛宿儀平兵衛取肴類差出候付金百疋並煙草差遣候

一加治木ヨリ被差越候御陸尺八人當所迄罷出明日ヨリ相勤答候出水ヨリ是迄ハ繼人足也

五月十日 曇

一今朝五時阿久根御立同所大河村ノ内すべり口ト言所御野立

一大河村庄屋役所御小休青銅貳拾疋被下候

一高城ノ内西方御晝休亭主孫兵衛江金子五十疋被下候

一今朝五時阿久根御立同所大河村ノ内すべり口ト言所御野立

一大河村庄屋役所御小休青銅貳拾疋被下候

一高城ノ内西方御晝休亭主孫兵衛江金子五十疋被下候

一同所ノ内湯田峠御茶屋御野立

一同所ノ内楮藏ノ前御野立

一水引ノ内八幡宮江御通掛御參詣付御初穗銀貳兩御進納

一川内川御船渡最前ノ通船手當等有之

一金百疋 郷士年寄與頭

一金百疋 平山叶納右衛門

一同百疋 瀨崎 岩屋

一同百疋 松兵衛

右四行向々ヨリ兩種宛進上付右ノ通被下候

一同百疋

御船頭江

一同百疋

水手中江

一今七ツ半時向田江御着鬼塚仲左衛門江金百疋被下候平兵衛宿田栗十吉
二而候

一金百疋

岩屋
松兵衛

一右御用達衆宿江銚子取肴差出候付本行ノ通被遣候

一金五十疋

一刻煙草貳拾包

右同人江

一右御役人宿ニモ同斷付本行ノ通被遣候

五月十一日 小雨

一今朝五時向田御立隈ノ城ノ内木場ノ茶屋御小休青銅貳拾疋被下候

一串木野ノ内五反田御茶屋ノ下御野立

一市來御晝休亭主油屋善左衛門江金五十疋被下候

一金五十疋

市來郷士年寄
萩原五兵衛

與頭
勝目鼎治

右進上物伺機嫌付右ノ通被下候

一同所ノ内上ノ原御小休亭主江青銅十疋被下候

一苗代川ニテ御小休朴宗伯江青銅四十疋被下候尤宗伯母事

一久長公御幼少ノ砌御奉公人ニテ奉附上候とヤト申者ニテ候處燒物類進

上致候

一今七ツ過伊集院町江御着宿亭主善七江金百疋被下候平兵衛宿乙次郎ニ

テ候

一同所郷士年寄與頭進上物ニテ伺御機嫌付金五十疋被下候

一伊集院迄 數馬樣御迎トシテ御越被成候

一同所迄御役人曾木彌五左衛門組頭邦永仲之進爲御機嫌伺差越候書役原

田宗之丞

一重御供人數並重御道具類同所迄差越候

一御香奠金子百疋

右伊集院妙圓寺江御通掛

御代參平兵衛相勤候付市來湊ヨリ御先ニ踏越候尤阿久根ヨリ妙圓寺

江案内申越置候

五月十二日

一今朝五時伊集院御立横井江四ツ時前御着御小休亭主江金五十疋下宿江
青銅二十疋被下候

一横井江對馬樣藏人樣相馬樣藤次郎樣二階堂源太夫樣其外樣御出御銚子

御取肴等御小納戸八代甚助外ニ御小姓兩人御茶道一人持越居候而差上

候

一水上御茶屋江九時御着御親類樣方其外樣御出迎ニ御出被成御銚子御取

肴等被差出候

一水上江御役人江田吉右衛門與頭日野堅助番頭曾木源助其外詰役々爲伺

御機嫌差越居候書役野田四郎兵衛

一同所江御近習役御小姓御茶道差越居相詰

一同所江御留守居御役人座書役同斷

一同所ニテ御供人數江晝飯士分ハ陣丹荷入付ノ辨當其以下ハ束飯

一今八ツ過御着館御祝御次第ノ通

一御着ノ御届御當番御家老衆江御留守居ヨリ申出候

一御親類樣其外御客樣江御吸物御銚子御取肴御料理被差出候

一御役人組頭番頭諸役々其外御祝儀申上

一御役人與頭番頭於御中與 御目見被仰付候

一於御小書院御用達衆江御吸物銚子御取肴被差出御内用賴衆御亭主前ニ

テ先今日ハ御取替迄ニテ直ニ御料理被差出候ニ直ニ御暇被申上候尤後

日緩々御招ノ筈也

一御役人江御膳下被下候

一御物足輕江銚子取肴飯御留守宿ニテ被差出候

一御着ノ御左右加治木江足輕飛脚ヲ以申越候

一於加治木五社並三ヶ寺江御代參被仰付候

一御側方表方惣御供人數中江於御役人座御吸物御銚子御取肴御料理被下

候

五月十二日鹿兒嶋御着御行列

松田武兵衛

御口ノ者

有馬勇之進

御目印

御率馬

御手人

篠崎嘉左衛門

有馬半右衛門

沓籠

御先弘大野源四郎

黒木與右衛門

隈元佐一郎 御兵具方足輕

御馬印

御弓台

手替

神宮傳左衛門

長友勘助

御鎧箱

御刀簞笥

同

同

御兵具方足輕 同

手替
けさ市

御挾箱

人足万助

黒熊毛

手替

羽山喜三次

御用簞笥

御行列直御物足輕

御挾箱

人足休左衛門

対御道具

中村清右衛門

手替
矢七

手替
小田清助

御歩行水間勘兵衛

御取次番
桑原休左衛門

御小姓東助右衛門

御歩行上床喜左衛門

御長刀神宮金右衛門

小濱爲之助

御小姓稻垣要助

御歩行伊藤彌左衛門

右同

御小姓中摩平助

壹岐平八

御扱首口壹岐孫左衛門

御刀笥

御小姓人枝甚左衛門

法元仲藏

御扱首口宇都宮勘左衛門

御用達

丸田彌七左衛門

御近習役

本田郷兵衛

御留守居

宮内次郎左衛門

御小納戸

松山利左衛門

御醫師

大場養心

御近習役

安山武左衛門

右同
根占三世

御用達

左近允六右衛門

御小納戸

木佐木新右衛門

御小者

兒玉休助

立山半助

御手鍵 神宮長右衛門

御長柄 手替 篠崎傳七 御替道具

御将机

御養箱 善四郎

人足新助

御口ノ者

益山嘉太郎

御馬柄杓

庄左衛門 虎皮鞍蓋

御茶辨当

御馬

御馬

御手人 兒玉小次郎

沓籠

御両掛

同

同

同

御挾箱貳肩

供桿足輕

合羽籠

同

同

同

同

同

同

挑灯笼壹荷荷

竹馬

同

同

同

桿 小田孫七

御役人

具足箱 壹輪駕籠

ヤ印

桿 中村奎左衛門

鍵

モ印

草履取

両掛壹荷

葉箱 壹荷

御用達 兩人

台輪駕籠 貳挺

御乗駕籠壹挺

トツカリコ 壹荷

手鍵 貳本

両掛 貳荷

乗駕籠七挺

明長持貳桿

御 御 御
部 行 供
屋 列 立
同

列
朝
制
度

卷之五十六

島津家列朝制度

卷之五十六

御供立
御行列
御部屋同

御 供 立

一 御上下之節、伏見・大坂 御逗留中、御供人数へ、是迄地賄料被下來候へ共、當時諸色高直有之、旅込料相重、右被下方ニ付てハ、及迷惑由候付、已来 御上下御供之面々、両所 御逗留日数ニ応じ、道中筋同前之賄料被成下、増銀之儀は不被下候、尤、右通賄料被相重ニ付ては旅宿町家御借入相成候付て之宿賃は、御物より御払無之候条、致宿候条面々より、夫々宿札取計候様可仕候、
右之通御供人数へ申渡、京・大坂御留守居、其外可承向々へも可申渡候、

寛政二年戊三月

伊 賀

一 来年就 御参勤、小倉筋御供之面々、弁当等被持越手輕罷通候ニ付、御国道中之儀は、子年御参勤之節より、飯米・味噌・野菜・薪は、下代方並郡見廻方より、宿主へ相渡置、宿主より御供人数へ可相渡候、左候て、代錢之儀も、宿主受取、下代方へ可致首尾候、其外、酢・醬油類之儀は、所ニて先例之通、音物可被申渡候、
一 小倉筋御供之面々、大里より船中飯米之儀、乗船之船頭方へ相渡、船之積入、船頭方ニて白米相調、乗船之節不差支程、船頭より致首尾、薪等之儀も、例之通可被申渡候、
一 御家老衆・大御目附衆・御用人・御近習役之儀は、家来下人より飯米等受取、船へ乗セ付筈候間、船頭方へ受取ニ不及候、尤、家来・下人不差廻人は、船頭方より致首尾筈候、
右は、例之通此節之儀も被仰付候間、得其意間違無之様可被申渡候、

左候て十二月廿二日三日比より之潮時より御船立、久見崎出船之筈ニ被仰渡候間、諸事如例可被申渡旨、御差図ニて候、
享保廿年卯十一月十九日
福 山 平太夫

御行列御供之次第、御旅・御地廻

伊勢兵部文書之内

- 一 松平大隅守行列之人数
- 一 乗馬廿騎 外ニ替之乗馬拾騎
- 一 小々姓拾人
- 一 陸之者百卅人
- 一 小者・中間・道具之者貳百廿人
- 一 又小者七百九拾人
- 一 都合千八百八拾人
- 一 寛永十二年四月三日
- 一 松平薩摩守、在江戸ニ召列候人数、
- 一 乗馬廿騎
- 一 小々姓廿人
- 一 陸之者貳百人
- 一 小者・中間・道具之者百拾人
- 一 又小者八百九拾人
- 一 都合千貳百四拾人
- 一 二口ニして、貳千四百廿人、

寛永十二年亥四月三日

寛政五年丑御下国ニ付、左之通、

一 当 御下国ニ付、御道中御行列立、別冊之通被 仰出、且、御鷹之儀ハ、
御着 城之節、一御泊之駅迄被遣候条、此旨、可承向々へは可申渡候、

寛政五年丑三月

勘 ゼ 由

御行列之次第

御先

一 物頭 乗馬 足輕 御弓拾張 百矢箱二荷 御長柄拾本

合羽籠 御使番 御鎖奉行 乗馬 此間一町切 御口之者
数不定 御鞍置御馬式足 沓籠二荷 御目印 御請笠

御立傘 靱御弓台 御調度懸一荷 鳥毛金繩 御鎖 御請笠

御旗竿壹本 御鎧箱二荷 御陣長持一竿 御用櫃 御刀箱

御用簞笥 御用長持 御先払足輕 御馬印 尻籠御弓台

御先走足輕 御挾箱 白熊御鎖 中小姓三行 御長刀

御同朋 御腰物筒 同 御 空白 白熊フミ毛 御手鏡
之節計 右同 同 豹之皮 右同

御長柄傘 御弓場御弓台 御茶弁当 御茶 御水丹荷

御日傘 御挾箱 御蓑箱 御召御馬 御召替同 沓籠二荷

御差笠 右同 御挾箱数不定 山御襦籠 御桐油箱 御陣丹荷

御掛竹之 御挾箱数不定 兩掛 沓籠 又者押 又者 同

御用心馬三疋 飼料桶 兩掛 沓籠 又者押 又者 同

具足箱 供挾箱 供籠 合羽籠 又者押 御側役

御納戸奉行 御小納戸頭取 御小姓頭取 御側目附

御小納戸 御使番 奥医師 御側役 御側御用人

行列直横目 御家老 跡さらへ 表御小姓 御医師新番三行

此人数ニテ代ル々々相勤、

右東海道

(以下二行朱ニテ傍書)

一 物頭初御先荷物備之分は、御発駕御当日計、御泊之駅迄被召列候、御
着 城之節は、一御泊之駅迄御迎ニ可差越候

御使番勤

一 物頭 御先払足輕 御馬 沓籠
御目印 御請笠 御立傘 御持筒 玉葉御簞笥一荷

靱御弓台一肩 御調度懸一荷 鳥毛金繩 對御鎖二行

御旗竿壹本 御鎧箱三荷 御陣長持壹竿 御刀箱御用簞笥

御用櫃 御用長持 御馬印 尻籠御弓台 御先走足輕

御挾箱三行 白熊對御鎖二行 中小姓三行 中小姓三行人数不定

御長刀 御同朋 御腰物筒三行 此一對惣御供之節

同 此一對同上 御 空白 白熊フミ毛 御手鏡 御長柄傘
豹之皮 右同 (机)

御持筒 弓場御弓台 御茶弁当 御水丹荷 御床肌 御差笠

御挾箱二行 御蓑箱 御召御馬 沓籠 兩掛竹御挾箱数不定

山御駕籠 御桐油箱 御陣丹荷御茶弁当三行 御用心馬式足

飼料桶数不定 兩掛 沓籠数不定

是より末東海道之通、尤、可忖人数、

右、九州路、 以上

九月九日より三月廿九日迄、股引、

四月朔日より九月八日迄、脚半、

右 御参勤 御下国之節、徒にて御供之面々、向後右之通、致着用候様、被仰渡、

明和四年亥四月

御上下ニ付、御鎧箱・其外御道具羅紗覆之分、皆共来春御供之節より革覆黒ぬり金御紋調替被仰付候付、御供之面々羅紗覆無用可致旨、被仰渡、

安永三年十月

御腰物筒、此節より、革覆ニ被仰付候間、御供人数も右ニ準ジ、革覆ニ仕替候様被仰付旨、被仰渡、

安永三年十一月

御上下之節、御供之面々、於御道中、襷並野袴をも致着用候へども、過半袴着用之者多候、旅中之儀候間、向後野袴可致着用候、一向袴不致着様ことの儀にてハ無之候間、致着候者も可有之事候へども、野袴致着者多キ方可然候、伏見・大坂御滞在中は、当分迄之通可相心得旨、被 仰出候事

明和三年戌六月六日

御上下之節、御道中御行列御先乗・御跡乗為持候具足箱、以来 屋形

相調可為持候、其外は勝手次第之旨、被仰渡、

天明五巳正月廿四日

御上下之節、大里御乗船御船並御船御之節、兼て袴野袴致着用候者、都て野袴着用可致候、其外之所は、去ル、戌年被仰出置候通、可相心得旨、被仰渡、

明和六丑十二月

今度長崎へ 御立寄被遊、彼元にて 御出之節御供廻へ差笠被成御免候、左候て、以来江戸・御国元共、夏之内御出之御供、差笠相用候様、被 仰出候段、被仰渡、

明和六年丑十月

異本（※以下）

申来候、此旨、可承向々へ申渡、与中へも可被申渡旨、是又可申渡候、

明和八年卯八月

主馬

御道中筋御式大備並間之御上下御行列定之儀、被仰渡、

天明六年午六月

御部屋御道中御式大備並御行列立之儀、被仰渡、

天明六年午十二月

安房

但、御行列書略ス、

明和二年酉、御下国御供人数

御家老壹人	御側御用人貳人
御近習役貳人	御納戸奉行貳人
御使番貳人	御近習役並壹人
御記録奉行壹人	御小納戸役貳人
中通筒付五人	御右筆貳人
御茶道頭壹人	御馬廻五人
新番九人	御側御小姓拾九人
表御小姓四人	御側医師五人
御右筆稽古壹人	御側御同朋壹人
御側御茶道三人	御庖丁人頭壹人
御側方御家老座筆者壹人	御徒目附四人
御近習番所筆者貳人	御側御用人座筆者筆者貳人
横目八人	表医師貳人
御步行六拾五人	御庖丁人貳人
御料理役六人	御馬医三人
御馬乗貳人	御旅御台所付役三人
御納戸筆者壹人	右同藏役壹人
御腰物方式人	御時計方式人
御使番役所筆者三人	御書院筆者壹人
御役御剃刀御太刀箱御用箱御簞笥才領壹人	
御駕籠付御挾箱付四人	御兵具所肝煎壹人
御厩同壹人	御行器役三人
御酒部や貳人	御旗箱御鎧箱才領三人
御陣長持才領貳人	御本尊才領壹人

御太刀箱御用箱御簞笥才領貳人	御腰物長持才領壹人
御兵具才領壹人	御書院方御荷物才領壹人
御看経方壹人 手伝 壹人	御祈念方壹人 手伝 壹人
御小者拾三人	御書院仕坊主八人
足輕百廿八人	御草履取五人
御中間廿人	御供走番貳人
又者押六人	御手道具持拾六人
御食焚三人	御駕籠者廿人
御挾箱持九人	御笠持三人
人足六十五人	外廻主取園田与藤次

天明六年午

一 當時御差迫候付、来年 御下国御供人数並為御持道具等迄被相減候付、御家老以下行列等も、右ニ準じ別紙之通減少被仰付候間、向後間之往来は、猶又其心得を以減少可有之儀候旨申来候条、此旨、御使番以上之御役々へ申渡、可承面々へも可申渡候、

天明六年十二月

仲

別紙

御家老

一 弓台一肩	具足箱	馬印	刀箱	対挾箱	対道具
先供拾人ニて替之、打物	刀筒式ツ	乗物	家来四人		
与力貳人	医師壹人	手道具	草履取	長柄	壹挺弓台
茶弁当	両掛挾箱右側	鞍置馬	杓籠飼料桶	挑灯籠一荷	

合羽籠七荷 押式人

右供応減少差引、

御側御用人

一 弓台一肩 具足箱一荷 対挾箱 先供三人

刀筒老ツ 乗物 与力 家来四人 走番老人

手鍵 草履取 長柄 合羽籠三荷 竹馬一荷

御近習役

一 弓台一肩 両掛之具足箱一荷 同挾箱一荷

刀筒老ツ 乗物 家来四人 与力老人 手鍵 長柄

草履取 合羽籠三荷

御納戸奉行

一 具足箱一荷 挾箱一荷 乗物 手鍵 長柄 合羽籠二荷

但、上下拾人、

御使番

一 具足箱一荷 挾箱一荷 手鍵 合羽籠一荷

別紙之通被仰渡候間、致通達候

以上

安永三年十二月朔日

大野多宮

安永六酉

一 来戌年 御参勤之節より、以来 御上下毎ニ御鷹可被召列旨、被仰付候、御参勤之節、出水笹原御茶屋迄差越候様、被仰付候条、御上下前夜、御鷹数等御鷹匠頭より御鷹係御用人・御近習役え得差図候様、被仰付候、御行列之次第、別紙之通、大母衣之次白熊之頭ニ被召列候旨、被仰付候間、無間違様ニ可致首尾旨、可承向々へ可申渡候、

西九月

左中

寛政二年戌秋 御参勤候付、御手当書之内、

物頭

一 川上九戸

右、当秋 御参勤之節、六十人御備被召列候ニ付、東海道御供被仰付置候、御当地 御発駕之節も、同断被召列候ニ付、当日御供ニて出立、一御泊之所迄相勉、夫より 御先へ罷越、右御備道具同心等召列、久見崎より乗船、着坂之上、彼表へ可奉待上候、此旨申渡、相掛向々も可申渡候、

戊五月

伊賀

一 寛政二年戌秋 御参勤、御船立御供人数

一 御家老老人 一 若年寄老人

一 御側御用人老人 一 御側役式人

一 御納戸奉行式人 一 物頭老人

一 御使番老人 一 御小納戸頭取式人

一 御小姓頭取式人 一 御側目付三人

一 御小納戸四人 一 御供目付五人

御右筆式人	御鳥見頭老人
新番九人	奥御小姓拾老人
御隠居御小姓三人	御近習番拾人
表御小姓貳人	御小姓四人
奥医師七人内老人奥絵師	奥御同朋老人
奥御茶道三人	御記録奉行老人
御包丁人頭老人	御家老座書役式人
御用部屋書役式人	御側御用人座書役式人
中小姓廿五人	御包丁人式人
御料理役五人	御召馬乗乗老人
御馬乗老人	馬医老人
御鷹匠世話役式人	御鷹匠六人
同見習式人	御旅御台所附役四人
御納戸書役老人	御納戸藏役老人
御腰物方 御時計兼務 老人	小細工方御持筒方 御時計兼務
老人	下地金具師 御時計兼務 役 老人
御使番役所書役式人	御数寄屋老人
御鷹部屋書役老人	御研師御剃刀研老人
御家老用達式人	若年寄用達式人
御側御用人用達老人	御側役用達式人
御縫物師 御仕立兼務 老人	御矢師老人
御駕籠付御挾箱付三人	御用簞笥才領 御仕立物役 老人
御用櫃才領 下地金具師 老人	御用箱才領 彫物 老人
御当用御長持才領老人	御兵具方肝煎 御兵具才領兼 三人

御膳御口之者頭 取払兼務 式人	御膳配役三人
御酒部屋老人	綱差老人
御旗箱並御鍔御陣長持御兵具其外才領四人	
餌差三人	同心式百拾八人、内十七人
東海道計五人 御小人日付助	小人式拾人
御草り取六人	御鳥掛役式人
綱差老人	御鳥見付同心式人
御鷹方同心三人	御手道具持十六人
御駕籠之者 主取 老人	右同小添老人
御駕御之者拾人	御抱御駕籠者式人
御挾箱持廿五人	御笠持四人
御数寄や仕坊主四人	御口之者三十八人
又者押六人	御食焚三人
御小者五人	中間三十三人
人足三十七人	
内、六人御納戸、六人御数寄や、八人御膳所御酒部屋、老人御鷹方、五人御兵具方、拾老人御旅方、	
御馬廿壹足	
内、拾六足、東海道中、	
三道中役人	
取次番 御供練廻 新番九人	一行列直横目式人
川越方御徒目付式人、横目老人、藏方目付老人、中小姓四人、	
宿制方人馬案内御閑札打兼務式人	
御本亭番手振中小姓廿五人	

一 御旅方並御納戸方御進物方御殿方御徒目付式人

一 人馬掛藏方目付式人、横目壹人

一 御先荷才領式人

以上

一 四本御道具又は御手道具迄にて 御出之節、御番頭・御用人・御近習
役を初、都て手笠にて致御供来候へ共、向後着笠・合羽にて可致御供
旨、被 仰出候、

一 御一門を初、都て若党召列候人、手笠にて召列由候へ共、向後着笠・
合羽着セ候様ニとの 御沙汰にて候、

安永二巳五月

享和元酉六月 御倭約ニ付、

一 御参勤 御下国之節、向後御家老御供無之、御側御用人御側役之間兩
人にて、其外右ニ準ジ、惣勢御供人数、格外ニ御省略被仰付候、中略、
右之通、御倭約年限中被究置候、末略、

酉六月

寛政三年亥

一 於江戸は、御発駕 籠着共、以来御鷹之儀、御行列ニ下被召入候、御
道中之儀は、是迄之通被仰付候旨申来候条、此旨、可承向々へ可申渡
候、

亥三月

求馬

一 対御道具 (坂)カ
熊毛投鞘

一 御長刀 巢袋黒羅紗

一 御手道具 白毛植毛

御隠居様為御持道具、右之通被 仰出候段、申来候、此旨、可承向々
へ可申渡候

文化六年巳七月

将監

安永五年申六月

一 先達て御触書有之候供人数並騎馬供茶弁当、其外品々被 仰渡趣、承
知仕候、然処供立之儀は、古来より相定置、代々外向召連申事候、前
々之通無之候ては、家格ニも相拘り候儀、其上甚差支候筋合も御座
候、右ニ付ては、陸奥守より申上候趣も為有之由承候、代々致来候供
立ニ御座候へば、已前之通召連申度候、此旨、相伺申候、以上、

六月三日

御名

(以下五行朱ニテ傍書)

御付紙

可為伺之通候、

御口達之覚書

騎馬茶弁当之儀は、外々へ之侈りニも相成候間、三ヶ所下馬へは被致遠
慮可然事、

一 打揚腰網代乗物

一 虎皮鞍覆

一 茶弁当

右之通、従前々相用来候へ共、此節被仰渡候趣御座候ニ付、以来如何

可仕哉、奉伺候、以上

十二月十二日

御名

(以下、三行朱ニテ傍書)

御付紙

是迄之通、可被相心得候、

安永三年

落穂集

一 淨国院様御代始は、大身家之御供有之、先之玄蕃様打続御供被成候、

對御道具打柄大鳥毛長刀手鍔以上六本ヅツ御持セ被成候、^{ツツ}葛馬御牽セ、

東海道は一宿ヅツ御先ニ御通被成候、御家老衆も葛馬有之候、扨大身

家は、於江戸 公方様へ 御目見有之、其後御下り被成来候、

一 慈徳院様琉球立被召列候節、御舍弟兵庫様御供ニて、二對之御馬印打

柄長刀御手鍔已上八本御道具ニて有之候、御賦は承不申候、定て百人

已上御賦ニて可有之候、其節は御家老衆も手鍔式本宛ニて、六本道具

ニて可有之候、

一 淨国院様初て之琉球立之節、騎馬拾騎琉球立行列之内ニ有之、堀々右

衛門殿始御供目附之内、十人賦ニ被仰付、駕籠被下、馬立拾騎之内、

頭ニ乗被申候、二度目琉人立ニは、松田平右衛門殿御目附ニて、堀々

右衛門殿同前ニ被仰付被相勉候、其外之馬立衆、自分駕籠願有之候へ

共、御免無之、肥後八右衛門殿一人、^(故)肥満之外、自分駕籠被成御免

候、近年は御目附より一人御馬廻より四人、五騎ニ罷成申候、尤、頃

日は都て御供道中自分駕籠之故、琉球立方馬方は、皆々自分駕籠ニて

有之候、

一 道中自分駕籠之始りハ、宝永五子之年、予御小姓ニて始て御供仕候年

度御道中之故、江戸着已後、御小姓之面々大病人多ク出来、我々も余

程之病氣相煩候、右ニ付て、御側医師衆より、御小姓之病人多候は、

道中之暑氣当り故ニ有之候間、通馬を代銀を以被下、自分駕籠ニて罷

通筋ニ被仰付候ハバ、只今之様に病人多は有之間敷旨被申出、其通御

免有之、其時分御供目附中願被相立、御小姓同前被仰付、其外は御免

無之処ニ、其後より惣御供中より願有之、通馬代被下事ニ罷成、始は

二割引ニて被下候へ共、頃日は其沙汰相止、都て願之通被下由候、

御部屋御行列

一 御部屋御道中御式大備並間之御行列定、別紙四冊之通被相定候旨、被

仰出候段申来候条、可承向々へ可申渡候、

天明六年午十二月

安房

御部屋東海道御行列御式大備

同心

物頭乗馬

御弓拾五張

百矢箱二荷

合羽籠數不

同心

同心

御弓奉行乗馬

御長柄拾五本

合羽籠
敷不

同心

御鳥見

餌差

御鍵奉行乗馬

御鳥見方同心

御大

御鷹見御

御鳥見

餌差

五握
又は
拾握
ニても
御鳥
鷹通
手明
之刀
此所へ
為持候

御鷹道具乗馬

御黒葛馬

杓籠

御鞍置
御馬

同

同

同

同

杓籠

同

同

同

同

尻籠御弓台

同

百矢箱

同

御鍵御
対此

御鍵御
味吟御

御目印鍵

御請笠

御立傘

鞆御弓台

同

御鍵御
対此

御挾箱

大鞆

同

御調度掛

同

御鍵御
味吟御

御挾箱

同

兩掛竹之御挾

御旗箱

御鎧箱

入可所

御陣長持不
知數

御馬印

御刀箱

同

御用簞笥

御先抔同心

御挾箱

御用長持

箆御弓台

御先扨同心

御挾箱

御先走同心

黒熊御鎧

中小姓

中小
姓人
不定
数

御長刀

御先走同心

黒熊御鎧

中小姓

大御腰物筒

同小

御手鎧

御同朋

御長柄傘

御弓場

御弓台

大御腰物筒

同小

御手鑑

御床机

御挾箱

御茶弁当

御茶簞笥

御蓑箱

御笠

御挾箱

御召
御馬
杏籠
御挾箱面掛竹 数
山御駕籠
御桐油箱

御陣丹荷

御弁当
御次
茶弁当
御用心馬三疋
飼料桶数
定

御水丹荷

又者押
又者

両掛杏籠数
定
具足箱
供挾箱

又者抑
又者

供鑑
又者押

合羽籠数
定
御側役
御納戸奉行

供鑑
又者押

御小納戸頭取
御小姓頭取
御側目附
御小納戸

物頭
此三御
役
御先
乘無

御右筆
御使番
奥医師
御弓奉行
御鍵奉行
御側役

御鍵奉行
御供
此所へ
御供
可致候

御跡さらへ

御側御用人
行列直
横目
御家老
御一門
大身分
等御供
候ハバ
此末
御馬廻
御医師
表御小姓
此人數
にて代々
相勉

新番

御部屋御式大備

中国路九州路御行列立

御鳥見

御鳥見方同心

御犬

御鷹

御鷹

同

同

御鳥見

同

御鳥見並鷹匠手明之刀此所為持候

御鷹匠頭

乘馬

此間
一町
計切

寄物頭

乘馬

惣御供之節計

御馬三疋

沓籠

御目印
御鍵

御立傘

御持筒拾挺

玉葉簞筥二荷

鞆御弓台一
肩

尻籠御弓台一
肩

大鞆一
肩

百矢箱二
荷

御調度掛

御鍵
味吟

御

節

其

ヤ

サ

鑓

御

対

此

御鍵

御蓑箱

御旗竿

御旗箱

御鎧箱三
荷

御陣長持不
数

御刀箱

御用簞筥

御用御長持

御馬印

御先払同心

御挾箱

御先走同心

黒熊
御鎧

熊御弓台

御先払同心

御挾箱

御先走同心

黒熊
御鎧

中小姓

大
御腰物筒

小
同

中小姓

御長刀

御同朋

中小姓

大
御腰物筒

小
同

御長柄傘

御弓台

白猪毛
御手鎧

御茶弁当

御床机

此サヤ之節
御手鎧
御吟味

御茶弁当

御床机

御挾箱

御蓑箱

御召馬

御召替

沓籠

両掛竹之

御挾箱不
定数

御挾箱

山御駕籠

御桐油箱

御弁当

御茶弁当

御陣丹荷

御水丹荷

御用心馬三疋

飼料桶不
定数

両掛沓籠不
定数

是より末東海道
之通、尤、人数ニ
應ずべし、

御部屋間之

東海道御行列立

物頭乘馬 御弓拾挺 百矢箱 同 御長柄拾本
節計惣御供之

寄物頭乘馬 此所 御鳥見方同心
切町 御鳥見 御犬

餌差 御鳥見 並御鷹
御鷹五据匠手明 共刀小 御鷹匠頭乘馬 此間 御馬三足
餌差 為持候 切計町

杏籠 同 御目印鍵 御請笠 御堅傘

尻籠 御弓台 靱御弓台 御調度掛

御鍵 此對御鍵 鞘其節御吟味

御旗竿 御旗箱 御鎧箱 同 御陣長持

同 御馬印 御刀箱 御用簞笥 御用御長持

御先払同心 御挾箱 御先走同

籠御弓台

御先払同心 御挾箱 御先走同

黒熊
御鍵

中小姓

同数人
定不

中小姓

中小姓

御長刀

御同朋

黒熊
御鍵

中小姓

同数人
定不

中小姓

御手鍵

御挾箱

御
御長柄傘

御弓場
御弓台

御茶弁当

御蓑箱

御手鍵

御挾箱

御召替
御馬 同

沓籠

両掛
御挾箱 二

山御駕籠

御桐油箱

御用心馬三疋

沓籠

飼料桶

又者押

又者押

又者

同

供鍵

又者押

供挾箱

合羽籠

御側役

御納戸奉行

又者

同

供鍵

又者押

御小納戸頭取

御小姓頭取

御側目附

御小納戸

御使番

物頭

惣御供
無之節
は此場
二乗

奥医師

御側役

御側御用人
行列直
横目
御家老

御部屋間之

中国路九州路御行列立

御鳥見

餌差

御鳥見方同心

御大

御鷹五据

御鳥見

餌差

御鳥見並鷹御匠手之刀此所為持候

御鷹匠頭

乘馬

此所一町計切

寄物頭

乘馬

忽御供之
節計

御馬

同

沓籠

御目印鍵
御請笠
御堅傘
御持筒
同

同
同
同
玉葉御簞笥
同
尻籠
御弓台

御鍵

御調度掛

御旗竿

御旗箱

御鍬

御鍵

此對御鍵其節御之吟味

同
御陣長持
同
御馬印
御刀箱

御用簞笥

御用御長持

簞御弓台

御先払同心

御先払同心

御挾箱

御先走同心

御鍵

中小姓

同敷人
定不

中小姓

御挾箱

御先走同心

御鍵

中小姓

同敷人
定不

御長刀

御同朋

御

中小姓

白猪毛
御手鍵

中小姓

其節之御吟味
御手鍵

御長柄傘

御弓場
御弓台

御茶弁当

御茶簞笥

御挾箱

御養箱

御召
御馬

沓籠

御掛
御挾箱

同

御挾箱

御桐油箱

御用心
御馬

同

沓籠

飼料桶

又者押

又者押

又者 同

供鍵

又者押

供挾箱

合羽籠

又者 同

供鍵

又者押

御側役

御納戸奉行

御小納戸頭取

御小姓頭取

御側目附

御小納戸

御使番

奥医師

御側役

御側御用人

行列直
横目

御家老

膳師

膳頭

膳司

膳長

膳次

又者押

膳師

膳頭

膳司

膳長

膳次

又者押

膳師

膳師

膳頭

膳司

膳長

鹿児島県史料刊行委員会

(五十音順)

川越正則	南日本新聞社
芳即正	鹿児島市立女子高等学校
北川鉄三	鹿児島大学教育学部
桐野利彦	鹿児島県立教育研究所
五味克夫	鹿児島大学法文学部
郡山良光	鹿児島経済大学
小西四郎	東京大学史料編纂所
犀川稔吉	鹿児島県教育庁
竹内理三	東京大学史料編纂所
原口虎雄	鹿児島大学法文学部
福満武雄	鹿児島県文化センター
宮下満郎	鹿児島県立鶴丸高等学校
村野守次	鹿児島県立加世田高等学校
桃園恵真	鹿児島大学法文学部

非売品

昭和四十二年三月三十一日

発行所

鹿児島市城山町一

鹿児島県立図書館

印刷所

鹿児島県教員互助会印刷部

